

はじめに

令和6(2024)年度の愛知県陶磁美術館は、令和5年度に始まった長寿命化の工事に伴う全館休館のまっただ中にありました。建物の長寿命化のための休館でしたが、外からは「全館リニューアルのための休館」と思われていたことでしょう。長寿命化が第一義という状況とそれを越えた期待との狭間であって、今年度はどこまで新しい愛陶をご覧いただけるようになるかという挑戦の一年でした。

美術館の活動で展示と教育普及以外の収集、保管、調査・研究といった活動は休館とはかかわりなく行われていきます。休館の影響を強く受けたのが展示と教育普及で、これらは昨年度に引き続き外に出ていくことで経験を積み重ねていきました。通常とは異なる場での活動は新たな気づきを与えてくれるものであり、今後の活動の大きな糧となるものであったと考えています。

展示施設ではリニューアルによって照明のLED化、老朽化したケースの更新を限定的ではありますが進めました。そして予算の制約を受けない、考えることで進められる部分については、大きく進展したと考えています。愛陶全体としての在り方を考える、お客様目線で考える、様々な「考える」を積み上げながら、ここ数年目指してきた「ようこそ美術館」への転換が大きく進みました。

既にオープンした陶芸館、古窯館が、「陶芸館」→「つくるとこ！陶芸館」。「古窯館」→「窯の記憶I」「窯の記憶II」というように、建物の愛称、展示室の名称も、お客様に分り易く、親しみ易くという視点からの整理が行われています。本館の常設展も「愛陶コレクション展」へと名称を改め、その内容も一新です。愛陶の持つポテンシャルを最大限に生かして、世界のやきもの、そして日本のやきもの、猿投窯の持つ意味、それらがどこまで伝えられるのか、「一度見ればいい」という常設展から、「次の出会いが楽しみな」愛陶コレクション展へと現在のスタッフが作り上げました。

最後は例年の館報と同じ言葉で終わります。全国でも最大規模の陶磁専門の美術館として、愛知の、東海の、日本の、そして世界の皆様に楽しんでいただける館となること。それを目標として活動し、積み重ね、そしてこれからも変わってまいります。これまで同様、どうぞご支援、ご指導のほど、よろしく願いいたします。

2025年8月

愛知県陶磁美術館

総長 伊藤 嘉章

目 次

I	事業及び施設の概要	3
II	2024年度事業	6
1	展示（休館中の取組）	6
	（1）出張展示	6 / （2）館外展示 10
2	本館展示（内覧会）	10
3	所蔵資料	11
	（1）資料収集	11 / （2）資料活用 28
	（3）資料保存	40 / （4）資料公開 40
4	調査・研究	41
	（1）猿投窯出土品調査研究	41 / （2）研究紀要 41
	（3）研究論文等	41 / （4）講演、講義等 42
	（5）審査員、委員等	43
5	教育・普及	44
	（1）学校連携事業	44 / （2）地域の大学との連携 45
	（3）館内実施講座	46 / （4）館外実施講座・講義 46
	（5）ボランティア	47
6	陶芸館	48
	（1）休館中の取組	48 / （2）リニューアルオープン 50
	（3）通年事業	52 / （4）館外実施講座・講義 55
7	地域連携	59
	（1）愛知県内	59 / （2）広域 59
8	現代陶芸魅力発信事業	60
9	魅力向上推進事業	61
10	広報活動	62
11	事業活性化の取組	65
12	長寿命化改修工事に伴う休館について	66
13	リニューアル（施設面）	67
III	参考資料	70
1	組織及び事務分掌	70
2	決算額（2024年度）	71
3	愛知県陶磁美術館運営会議（2024年度）	72
4	愛知県陶磁美術館資料委員会（2024年度）	73
5	利用者の状況	74
6	沿革	79

I 事業及び施設の概要

1 事業の概要

愛知県陶磁美術館は、美術的、歴史的、産業的に貴重な陶磁資料の保存を図り、陶磁文化の普及・向上と陶磁器産業の振興に寄与するため、陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存、展示及び調査研究並びに県民のやきものづくり体験の事業を行っている。

愛知県陶磁美術館条例（抜粋）

（設置）

第一条 陶磁文化の振興及び陶磁器に関する文化財の保存並びに住民の陶芸に対する教養の向上を図り、併せて陶磁器産業の発展に寄与するため、愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）を瀬戸市に設置する。

愛知県陶磁美術館基本理念

「土」という自然素材を焼くことにより生み出されたやきものは、原始時代から現代まで、世界中の人々の生活に不可欠なものとして、暮らしと産業を支えてきました。同時にやきものの特徴である文様や造形、土や釉薬の輝きや色などは、我々の美的感性や創造性を刺激し、現在も多くの芸術作品が生み出されています。

当館は、こうしたかけがえのない歴史的な文化財や芸術作品など、様々な魅力を湛えたやきものを中心とした美術館として、多くの人々に鑑賞、制作、学習等の機会を提供することにより、人々の知性と感性を高め、創造的で多様性のある心豊かな地域社会の実現を目指します。

（1） 展示活動

古代から現代までの日本及び世界の歴史陶磁と芸術性あふれる所蔵作品等を展覧するとともに、陶磁を中心として工芸全般まで領域を広げ、国内外の優れた作品が鑑賞できる場を企画展示によって展開する。

（2） 作品・資料収集活動

所蔵展示を魅力あるものとし、日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁作品、海外の代表的な窯業地の陶磁作品、国内外の現代陶芸、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針として収集する。

（3） 調査・研究活動

館活動の基礎となる収集、展示、教育普及等に関する調査研究を行い、陶磁文化の普及、向上を図る。

（4） 地域の文化創造の拠点としての教育普及活動

多様な魅力を有する陶磁文化の教育普及活動の展開を図りながら、県民にやきものづくりの体験や芸術文化活動の発表の場を提供し、地域における文化創造の拠点として機能する。

（5） 陶磁器産業の振興活動

ものづくり愛知の原点でもある陶磁の生産・制作者と利用者をつなぐ各種の事業を展開し、陶磁器産業の振興に寄与する。

（6） 地域の活性化に寄与する活動

地域の活性化や賑わいを創出する施設となるよう、地域や団体等と連携を図りながら事業を展開する。

（7） 陶磁文化の世界への発信

日本を代表する陶磁専門ミュージアムとして、国内外の美術館、博物館、研究機関などと積極的に交流し、愛知県が誇る陶磁文化を世界に向けて発信し、本県の国際化の一翼を担う活動を行う。

2 施設の概要

(1) 所在地

愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

(2) 規模

- 敷地 280,480.47 m²
 - 建築面積／延床面積／基本構造 ※各建物名称は正式名を記載
- | | | | | |
|-----|--------------------------|---|--------------------------|--------------------------|
| 総計 | 10,228.88 m ² | ／ | 20,968.60 m ² | |
| 本館 | 6,387.00 m ² | ／ | 14,792.45 m ² | ／ 地上3階地下1階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り |
| 南館 | 1,475.42 m ² | ／ | 1,519.39 m ² | ／ 平屋一部2階建 鉄骨鉄筋コンクリート造り |
| 西館 | 275.50 m ² | ／ | 232.75 m ² | ／ 平屋建 鉄筋コンクリート造り |
| 陶芸館 | 1,442.25 m ² | ／ | 3,541.41 m ² | ／ 地上1階地下2階建 鉄筋コンクリート造り |
| 古窯館 | 360.79 m ² | ／ | 344.00 m ² | ／ 平屋建 鉄骨造り |
| 茶室 | 160.36 m ² | ／ | 148.23 m ² | ／ 平屋建 鉄筋コンクリート造り |
| その他 | 127.56 m ² | ／ | 390.37 m ² | |

(3) 開館時期

本館	：1979年10月13日		(工期 1977年12月23日～1979年3月20日)
	1994年7月6日	[増築開館]	(工期 1991年10月16日～1993年11月30日)
南館	：1978年6月1日		(工期 1976年12月25日～1978年3月20日)
西館	：1982年12月4日		(工期 1982年6月30日～1982年12月4日)
陶芸館	：1986年4月12日		(工期 1985年10月3日～1986年3月20日)
	1994年4月1日	[増築開館]	(工期 1991年10月16日～1993年11月30日)
古窯館	：1994年4月1日		(工期 1992年9月29日～1993年3月18日)
茶室	：1981年11月26日		(工期 1981年5月1日～1981年11月26日)

(4) 博物館法、文化財保護法上の位置付け

博物館相当施設（博物館法第31条）

重要文化財公開承認施設（文化財保護法第53条）

(5) 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで

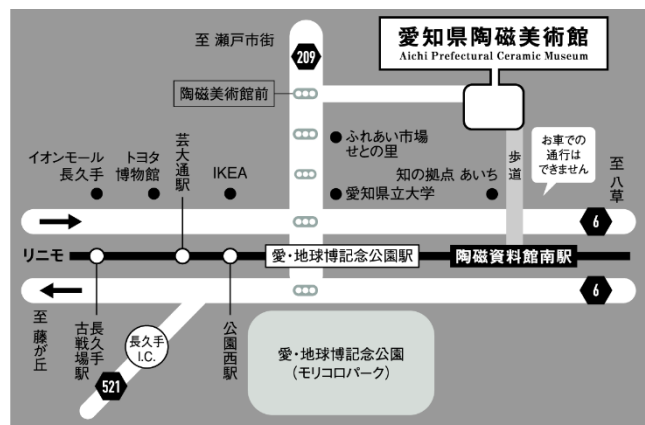
ただし、7月1日から9月30日までの間は午前9時30分から午後5時まで

（いずれも、入館は閉館の30分前まで）

(6) アクセス

<公共交通機関>

- リニモ（東部丘陵線）「陶磁資料館南」駅下車、徒歩600m
- 名鉄バス「瀬戸駅前」（名鉄瀬戸線「尾張瀬戸駅」）のりば1から、「菱野団地」経由「愛・地球博記念公園」行き「陶磁美術館」下車、※土・日・休日のみ運行（休館中は運行中止）<自家用車>
- 東名高速道路「日進JCT」経由、名古屋瀬戸道路「長久手IC」から足助・瀬戸方面に約5km
- 東名高速道路「名古屋IC」・名二環道「本郷IC」から瀬戸・長久手・足助方面に約10km
- 東海環状自動車道「せと赤津IC」から約7km<タクシー>
- 地下鉄東山線・リニモ「藤が丘」駅から約20分
- 名鉄瀬戸線「尾張瀬戸」駅から約15分



(7) 観覧料

一般（個人） 一般 400円、高・大学生 300円、中学生以下 無料
団体（20人以上） 一般 320円、高・大学生 240円
企画展はその都度決める

(8) 休館日

月曜日（月曜日が休館のときはその直後の平日）

(9) 各施設の外觀



本館



デザインあいち (南館)



(仮)猿投窯調査研究センター (西館)



つくるとこ!陶芸館



窯の記憶 I・II (古窯館)



茶室「陶翠庵」

Ⅱ 2024 年度事業

1 展示（休館中の取組）

（1）出張展示

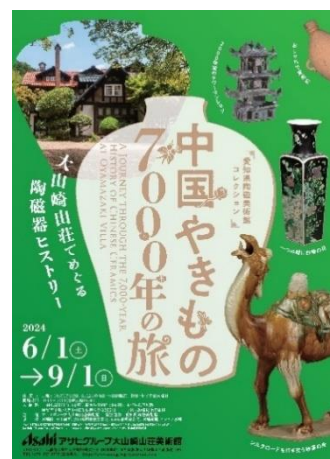
① 愛知県美術館・愛知県陶磁美術館共同企画「コレクションズ・ラリー」

2023 年度から 2024 年度にかけて愛知県美術館で開催した展覧会（会期：2024 年 1 月 16(火)－4 月 14(日)）。事業の詳細は『令和 6（2024）年度 愛知県陶磁美術館 館報（令和 5（2023）年度事業報告）』にて報告済のため詳細を省く。

② アサヒグループ大山崎山荘美術館「愛知県陶磁美術館コレクション 中国やきもの 7000 年の旅～大山崎山荘でめぐる陶磁器ヒストリー～」

当館のコレクション約 80 点により、中国新石器時代から清朝にいたるまで 7000 年に及ぶ悠久の中国陶磁の歴史を紹介した。約 100 年前に建てられた大山崎山荘の建築、室内の中国古代の意匠と、絢爛たる中国陶磁が共演する展覧会とした。

会 期	6 月 1 日(土)－9 月 1 日(日)
開館日数	78 日（※8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)は、台風 10 号接近により臨時休館。）
会 場	アサヒグループ大山崎山荘美術館 本館、山手館
主 催	アサヒグループ大山崎山荘美術館
特別協力	愛知県陶磁美術館
担 当	愛知県陶磁美術館 主任学芸員 田畑 潤 アサヒグループ大山崎山荘美術館 学芸員 野崎美美子氏
出品件数	80 件
観覧者数	12,681 人
広報出版	ポスターB2 判、チラシ A4 判
展示構成	第 1 章：新石器時代から初期王朝時代 原始の多彩なやきもの 第 2 章：戦国時代から漢時代 墓におさめられた死者への思い 第 3 章：三国時代から隋時代 うわぐすり発展の兆し 第 4 章：唐時代から宋・元時代 世界に広がる中国のやきもの 第 5 章：明・清時代のやきもの 青花・五彩と文人趣味



A4 チラシ

関連行事（当館主催分のみ）

◇煎茶会「中国陶磁と煎茶を楽しむ」

日 時	6 月 8 日(土) ①11：00－12：30、②15：00－16：30
講 師	高取友仙窟氏(煎茶道賣茶流 4 代家元) 主任学芸員 田畑 潤(煎茶道賣茶流師範 田畑貞仙窟)
参加者数	①10 人、②11 人
会 場	アサヒグループ大山崎山荘美術館 彩月庵

◇ギャラリートーク 「中国やきもの 7000 年の旅」

日 時 7月14日(日) ①11:00-12:00、②15:00-16:00

講 師 主任学芸員 田畑 潤

参加者数 ①50人、②40人

会 場 アサヒグループ大山崎山荘美術館 本館、山手館

主要掲載記事

「京都府大山崎町の美術館で「中国7千年の歴史」焼き物からひもとく企画展」(京都新聞 2024.7.4)

「「中国やきもの 7000 年の旅」アサヒグループ大山崎山荘美術館(京都)で9月1日まで」

(美術展ナビ 2024.6.25)

「跨时空巡礼 “中国陶瓷七千年”在京都开展」(中国 新唐人电视台 2024.8.9)

定性評価－自己評価－

本展覧会に出品した作品は、当館の中国陶磁コレクションの中核をなす作品を数多く含み、リニューアルオープン後の「中国のやきもの」コーナーを構成する上で試金石ともなる展示であった。会場規模の制約などから点数を絞ることとなったが、中国陶磁の通史を捉えることができる構成となった。大山崎山荘の建物と調度品の意匠や、山手館における中国イメージの空間演出などにより、作品の魅力がより引き出された形となったことが、今回最大の成果であったと言える。

また、両館では来館者層が異なるため、中国陶磁を鑑賞する初心者にも理解ができるよう、中国史及び陶芸に関する専門用語を極力用いないよう記述することとした。さらに、作品個々のキャプションに一言キャッチコピーを添えることで、中国陶磁に馴染みのない鑑賞者にも親しみを持っていただく工夫とした。今後の当館の展示事業、教育普及事業において柔軟に対応ができるよう課題としていきたい。



展示風景

③ 安城市民ギャラリー「やきものの秘密どうやってできるの? この色・かたち

～愛知県陶磁美術館コレクションより～

会場となった安城市民ギャラリーの学芸員との共同企画により、「やきものの秘密」をテーマとして、「やきものにはどんな種類があるの?」「やきものはどのようにして作られるのか?」「美しい色やかたちは、どうやってできるの?」など、やきものの基礎知識や鑑賞法を紹介しながら、謎を解き明かすように多彩なやきものの魅力を紹介した。



A4 チラシ

会 期	6月21日(金)～7月20日(土)
開館日数	27日
会 場	安城市民ギャラリー B、C室
主 催	安城市、安城市教育委員会
共 催	愛知県陶磁美術館
担 当	愛知県陶磁美術館 学芸課長 大槻倫子、 学芸員 鮫島由佳、学芸員 宮川菜々子 文化振興課芸術文化係 (安城市民ギャラリー) 谷村捺美氏、峯村 徹氏、永坂百花氏
出品件数	105件
観覧者数	1,970人 (内訳) 一般 277人 小学校の見学学習 696人 中学生以下 203人
広報出版	ポスターB2判、チラシA4判
展示構成	第1部 やきもののひみつ 第1章：種類のひみつ 第2章：形のひみつ 第3章：釉薬のひみつ 第4章：デコレーションのひみつ 第2部 スゴイぞ!やきもの世界 第1章：人間国宝の技 第2章：瀬戸ノベルティってなあに? 第3章：現代作家の自由表現
関連行事 (当館主催分のみ)	
◇ワークショップ「安城市の土でお絵描きしよう」	
日 時	6月23日(日) 14:00-16:00頃
講 師	陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 青井すみれ
参加者数	13人
会 場	安城市民ギャラリー創作実習室

◇ギャラリートーク

- 日 時 ① 6月30日(日) 14:00-15:00
② 7月13日(土) 14:00-15:00
- 講 師 ①学芸員 宮川菜々子
②学芸課長 大槻倫子
- 参加者数 ①22人、②20人
- 会 場 安城市民ギャラリー 展示室B・C

主要掲載記事

- 「広報あんじょう 6月号」
「村上佳奈子の週刊愛ちっち」(東海テレビ 2024.6.23)
「まちかどリポート」(FM キャッチ ぴっちスクエア 2024.6.28)
「中日新聞 ARTJAM」(東三河版、西三河版)

定性評価－自己評価－

今回の出張展示を企画するにあたり、西三河地域の安城市民ギャラリーでは、通常は主に絵画展が中心であり陶磁器の展覧会を開催する機会が少ないため、やきものの入門編となるような展覧会を開催したいというリクエストがあった。そこで両館の担当者が検討を重ねて、「やきものはどのようにして作られるのか?」「美しい色やかたちは、どうやってできるの?」など、やきものの基礎知識を盛り込みながら、秘密を解き明かしていく展示構成とした。今回の展覧会は、先史時代から現代にわたる世界各地の陶磁資料を所蔵する当館の多彩なコレクションであるからこそ構成可能なテーマであったといえる。

展示に合わせて安城市民ギャラリーが制作した展示パンフレットの監修や解説文執筆にも協力し、本展を通じてやきもの文化に触れる機会が少ない地域において鑑賞の機会を提供することができた。また関連行事として陶芸指導員を講師として愛知の土を使ったワークショップを開催することにより、美術館と体験施設を有する当館の特徴をアピールし、再開館後の誘客につなげることができたと考える。



展示風景



(2) 館外展示

① 若手作家紹介事業 02 愛知県陶磁美術館×瀬戸市新世紀工芸館共催事業企画展

「やきもの現代考－混融 Mixed Melting－」

現代陶芸魅力発信事業の一つとして実施した。※詳細は 60 頁参照。

会 期 11 月 16 日(土)－2025 年 1 月 13 日(月・祝)

開館日数 44 日

会 場 瀬戸市新世紀工芸館 展示棟

主 催 愛知県陶磁美術館、瀬戸市新世紀工芸館、(公財)瀬戸市文化振興財団

観覧者数 949 人

② サテライト展示

愛知県美術館と当館の連携事業として実施。休館中の情報発信のため、リニューアルオープン第 1 弾及び第 2 弾予告パネル展示を行った。

会 期 4 月 1 日(月)－2025 年 3 月 31 日(月)

開催日数 365 日

会 場 愛知芸術文化センター地下 1 階

主 催 愛知県陶磁美術館



会場風景

2 本館展示(内覧会)

本館リニューアルオープン前の 2025 年 3 月 30 日(日)に、関係者やメディア(記者・SNS インフルエンサー等)を招き、内覧会を開催した。リニューアルした施設の紹介とともに、リニューアルオープン記念「新シュウ蔵品展－美術館シュウシュウのあれこれ」、愛陶コレクション展「世界はやきものでできている」を紹介した。※詳細は 62、68 頁参照。

(1) リニューアルオープン記念「新シュウ蔵品展－美術館シュウシュウのあれこれ」

リニューアルオープンを記念して開催する本展覧会では、長期休館中を含む令和時代に収蔵された作品から厳選し、古陶磁から現代陶芸まで幅広い作品が紹介する。作品の本質に関わる「シュウ」を取り上げることにより、美術館がどのようにやきものに関する資料を集め、研究し、そして公開しているのかを当館の収集活動を紹介する。

※事業の詳細は次号で報告する。

(2) 愛陶コレクション展「世界はやきものでできている」

日本や中国をはじめ、世界各地の多彩なやきものと、その歴史や魅力をテーマごとに紹介する常設展。特定の時代やテーマに焦点を当てた展示や、バラエティ豊かな展示、毎年異なるテーマで現代陶芸を紹介し、やきもの新たな可能性を探求する。定期的な展示替えにより、絶えず変化する新たな常設展へと進化させ、豊富なコレクションを有効活用する。

※事業の詳細は次号で報告する。

3 所蔵資料

資料の収集については、資料委員会開催要領及び収集方針に基づき、資料委員による協議を経て実施している。資料情報については、クラウド型収蔵品管理システム「I.B.MUSEUM SaaS」を用いて管理を行っている。

(1) 資料収集

収集資料一覧の凡例

- ・資料画像、生産地・制作地・窯・作家、制作時代・年代、点数、寸法（単位はすべてcm）、寄贈者名（寄附資料に限る）、所蔵資料登録番号の順に表記する。
- ・なお生産地・制作地・窯・作家、制作時代・年代が不詳である場合、その項目は詰めている。
- ・2023年度より所蔵資料登録番号の表記方法を「A（半角大文字アルファベット記号）000000（半角6桁）」へ変更した。枝番がある場合には、さらに「-（半角ハイフン）000000（半角6桁）」を加えて表記する。

① 購入資料（6件）

弥生土器 台付壺はじめ計6件を美術品等取得基金により購入した。



弥生土器 台付壺

伝・愛知県田原市浦町
出土
弥生時代終末期
(2世紀)
1点
高 17.3 口径 13.9
胴径 8.5 台径 11.9
A007535



灰釉貼花波文合子
(身)

瀬戸窯
鎌倉時代末期
(14世紀前葉)
1点
高 4.6 口径 3.7
胴径 7.4 幅 7.8
底径 4.3
A007536



瑠璃釉竹節形水指

瀬戸窯
江戸時代後期
(19世紀初期-中期)
1点
高 16.6 口径 16.5
底径 13.7
A007537



黄瀬戸手鉢

岡部嶺男
昭和41年(1966)頃
1点
高 16.0
口径 19.2×21.0
胴径 23.6×21.5
A007538



雫 - shizuku

吉川正道
平成17年(2005)頃
1点
高 80.7 直径 91.5
A007539



緑釉花器

鈴木 徹
平成31年/令和元年
(2019)
1点
高 29.5 胴径 37.0
A007540

② 寄附資料 (164 件)



梨皮泥具輪珠茶銚

宜興窯
清時代後期
(18-19 世紀)
1 点
総高 7.9 口径 4.2
胴径 7.5 底径 4.2
森克彦氏寄贈
A007541



朱泥茶銚

宜興窯
清時代後期 (1892 年)
1 点
総高 6.5 口径 4.9
胴径 7.5 底径 5.4
森克彦氏寄贈
A007542



「暮陽羨」急須

青木木米
江戸時代後期
(19 世紀)
1 点
高 12.5 口径 5.4
胴径 11.2 底径 5.2
森克彦氏寄贈
A007543



白泥三円風門三峰炉

青木木米
江戸時代後期
(19 世紀)
1 点
高 19.1 口径 11.6
底径 9.3
森克彦氏寄贈
A007544



朱泥倣時大彬湯沸

青木木米
江戸時代後期
(19 世紀)
1 点
総高 11.0 口径 4.6
胴径 8.2
底径 3.5
森克彦氏寄贈
A007545



白泥二重風門炉

京都
江戸時代後期
(19 世紀)
1 点
高 14.4 口径 14.0
底径 11.8
森克彦氏寄贈
A007546



白磁八角炉座

德化窯
明時代末期-清時代
(17-18 世紀)
1 点
高 4.4 長 16.8
森克彦氏寄贈
A007547



海鼠釉三足盤

宜興窯
清時代
(18-19 世紀)
1 点
高 3.8 外径 16.1
内径 14.2
森克彦氏寄贈
A007548



青花火馬文茗碗

明時代末期-清時代初
期 (17 世紀)
5 点
高 3.6 口径 6.3
底径 2.4
森克彦氏寄贈
A007549



青花立蓮文茗碗

景德鎮窯
明時代末期-清時代
(17-18 世紀)
5 点
高 4.2 口径 7.0
底径 2.4
森克彦氏寄贈
A007550



白磁水注

德化窯
明時代末期-清時代
(17-18 世紀)
1 点
総高 13.1 口径 8.0
胴径 11.0 底径 8.4
森克彦氏寄贈
A007551



交趾「福寿」字水注

石湾窯
清時代
(18-19 世紀)
1 点
総高 16.8
口径 4.3×4.2
胴径 9.7×9.5
底径 8.6×8.2
森克彦氏寄贈
A007552



五彩花鳥文壺

漳州窯
明時代末期-清時代初期(17世紀)
1点
高 7.4 口径 8.0
胴径 9.5 底径 5.7
森克彦氏寄贈
A007553



五彩菊竹文鉢

漳州窯
明時代末期-清時代初期(17世紀)
1点
高 6.5 口径 14.0
胴径 5.5
森克彦氏寄贈
A007554



青花吹墨貝形巾器

景德鎮窯
明時代末期-清時代(17-18世紀)
1点
高 3.9 長 8.0 幅 6.5
森克彦氏寄贈
A007555



古染付六角巾筒・
鉄絵蝶文蓋

巾筒:景德鎮窯
明時代末期~清時代(17-18世紀)
蓋:樂旦入
江戸時代後期(19世紀)
1点
總高 5.7 口径 5.0
底径 4.7
森克彦氏寄贈
A007556



煎茶道具一式

01 朱泥茶鉢:宜興窯
清-中華民國時代(19-20世紀) 1点
總高 8.1 口径 4.5
胴径 7.1 底径 4.5 /
02 陶製手鏡形鉢座:
不詳 1点
高 1.4 長 10.3 幅 7.7 /
03 青花歲寒三友茗
碗:景德鎮窯 清時代
後期-中華民國時代
(19-20世紀) 5点

高 1.4 長 10.3 幅 7.7 /
04 木製木瓜形托子:
不詳 江戸時代後期-
明治時代(19-20世
紀) 5点
高 3.3 長 12.0 幅 8.8
底径 3.5 /
05 青磁湯冷:不詳 清
-中華民國時代(19-20
世紀) 1点
高 3.3 長 12.0 幅 8.8
底径 3.5 /
06 錫六角風字式茶心
壺:不詳 清-中華民國
時代(19-20世紀) 1点
總高 8.5 口径 2.8
胴径 5.4 底径 4.4 /
07 斑竹茶合: 不詳 清
-中華民國時代(19-20
世紀) 1点
高 1.4 長 16.3 幅 3.6 /

08 斑竹茶合:不詳
清-中華民國時代(19-
20世紀) 1点
高 1.5 長 16.3 幅 3.9 /
09 青花樓閣山水文台
形巾床:不詳 1点
高 4.3 長 9.2 幅 7.4 /
10 青花花卉文角形巾
筒:不詳 1点
高 6.4 口径 4.1 底径 3.6 /
11 七宝花卉文筒形巾
筒:不詳 1点
高 5.6 口径 2.9 /
12 網代組提籃:不詳
1点
總高 29.8 長 22.4 幅 12.2
05~12
森克彦氏寄贈
A007559-000001~12



青花船乘人物図
三足香炉

景德鎮窯
清時代後期
(18-19世紀)
1点
高 6.9 口径 7.0
幅 7.8
森克彦氏寄贈
A007557



青磁鼎形香炉

龍泉窯
明-清時代
(16-18世紀)
1点
高 8.4 口径 6.5
胴径 7.8 幅 10.5
森克彦氏寄贈
A007558



五彩龍文八角硯

景德鎮窯
明時代後期
(萬曆年間・1573-1620)
1点
高 2.2 幅 10.0×10.0
森克彦氏寄贈
A007560



白磁魁星硯屏

德化窯
明時代末期-清時代
(17-18世紀)
1点
高 8.9 幅 7.8
奥行 3.4
森克彦氏寄贈
A007561



染付鉄絵貼付蝶文
硯屏

瀬戸
江戸時代後期
(18-19世紀)
1点
高 10.9 幅 16.6×2.9
森克彦氏寄贈
A007562



炉均釉筆洗

景德鎮窯
清時代(17-18世紀)
1点
高4.2 長14.3 幅9.5
底徑11.0×7.3
森克彥氏寄贈
A007563



青花十字形印章

景德鎮窯
明時代後期-清時代初期(17世紀)
1点
高6.7 長4.6 幅1.9
印面2.1×1.8
森克彥氏寄贈
A007564



五彩煎茶函盤

景德鎮窯
01「大明嘉靖年製」銘:
明時代後期(17世紀)
1点
高3.3 口径14.4 底徑9.2/
02「雅」字銘:明時代末期
-清時代(17-18世紀)
10点
高3.4 口径15.0 胴徑9.0
森克彥氏寄贈
A007565-000001~2



色繪獅子文四方皿

肥前
江戸時代(18世紀)
10点
高2.7 口径12.0
底徑7.0
森克彥氏寄贈
A007566



色繪貝尽文四方皿

肥前
江戸時代中期
(18世紀前半)
20点
高2.7 口径9.0
底徑5.9
森克彥氏寄贈
A007567



青花動物文角皿

景德鎮窯
明時代末期-清時代初期(17世紀)
01 青花鹿猫文角皿:16点
高2.5 口径8.8 底徑4.9/
02 青花鹿蝙蝠猫文角皿:4点
高2.5 口径8.8 底徑5.0/
03 青花鹿蝶猫文角皿:1点
高2.5 口径8.8 底徑6.2
森克彥氏寄贈
A007568-000001~3



泊天草洋

頼山陽
江戸時代後期
(19世紀)
1幅
202.0×66.2
森克彥氏寄贈
A007569



錫円式茶托

明時代末期-清時代
(17-18世紀)
5点
高1.6 口径9.5
底徑4.0
森克彥氏寄贈
A007570



錫茶心壺(一双)

明時代末期-清時代
(17-18世紀)
一双2点
左:錫三耳壺式茶心壺:
総高11.0 口径3.9
胴徑6.5 底徑5.5 /
右:錫六角茶心壺:
総高10.0 口径3.2
胴徑6.5 底徑6.5
森克彥氏寄贈
A007571-000001~2



饗養文尊

殷時代後期
(殷墟二期・紀元前12世紀頃)
1点
高24.9 口径21.7
胴徑20.5 底徑13.0
森克彥氏寄贈
A007572



夔耳盤

戦国時代前期
(紀元前5世紀頃)
1点
高13.7 口径39.0
最大幅47.1
森克彥氏寄贈
A007573



籐円式鉢座

清時代
(18-19世紀)
1点
高1.4 径10.7
底徑(内径)7.7
森克彥氏寄贈
A007574



湘斑竹木庵語録
刻字茶合

清時代
(道光 25 年(1845))
1 点
高 1.4 長 22.3 幅 4.8
森克彦氏寄贈
A007575



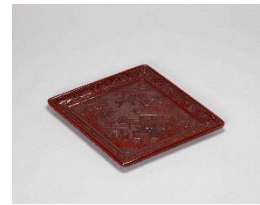
「素艶芳姿」茶合

20 世紀
1 点
高 1.5 長 13.7 幅 4.5
森克彦氏寄贈
A007576



黒漆舟形茶合

清時代
(18-19 世紀)
1 点
高 2.4 長 8.2 幅 5.6
森克彦氏寄贈
A007577



堆朱楼閣山水図
菱形盆

明時代-清時代
(16-18 世紀)
1 点
高 2.5 幅 34.7×26.8
森克彦氏寄贈
A007578



烏府

18-19 世紀
1 点
高 12.4 径 21.7
森克彦氏寄贈
A007579



黒漆関伽棚

春日大社西ノ屋
18 世紀以前
1 点
高 39.3 幅 40.1
奥行 27.4
森克彦氏寄贈
A007580



小篁画急須

清風与平(三代) /
田能村小篁画 /
田能村直入賛
明治 39 年(1906)
1 点
総高 7.5 口径 5.7
胴径 8.7 底径 4.7
玉井良胤氏寄贈
A007581



琅玕磁急須

清風与平(四代)
大正-昭和
(20 世紀)
1 点
総高 7.9 口径 4.3
胴径 7.9 底径 4.3
玉井良胤氏寄贈
A007582



赤像式スキュフォス

アピュリア
紀元前 4 世紀
1 点
高 14.4 口径 13.6
幅 21.5 底径 9.3
玉井良胤氏寄贈
A007583



花形裝飾付長方硯

猿投窯
平安時代末期
-鎌倉時代
(12 世紀中葉-13 世紀後葉)
1 点
幅 11.8×6.4 高 1.7
加藤久枝氏寄贈
A007584



東山 G-52・72 号窯跡
出土品一括

猿投窯
平安時代末期
-鎌倉時代
(11 世紀末-13 世紀中葉)
27 点
加藤久枝氏寄贈
A007585-000001~27



萱刈窯跡出土品
一括

瀬戸窯
鎌倉時代末期
(14 世紀前葉)
120 点
加藤清之氏・加藤惇氏
寄贈
A007586-001001~
13006



染付字文火入

瀬戸窯
享和3年
(1803)
1点
高8.8 口径11.0
底径8.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007587



染付花唐草文菱形皿

瀬戸窯
文化年間
(1804-1818)
5点
高1.9 口径8.9×7.0
底径4.6×3.7
鬼頭聖宜氏寄贈
A007588



染付花鳥文手付手焙

川本治兵衛(三代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点2パーツ
高23.0 口径13.3
胴径24.6 底径14.5
鬼頭聖宜氏寄贈
A007589



染付葵唐草文四段脚付重箱

瀬戸窯
江戸時代後期
(19世紀中頃)
1点5パーツ
高39.5
口径21.7×21.9
鬼頭聖宜氏寄贈
A007590



染付四君子文針木形皿

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
5点
高3.6 口径21.6
胴径13.5
鬼頭聖宜氏寄贈
A007591



染付四君子文針木形脛皿

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
6点
高3.9 口径15.1
底径9.1
鬼頭聖宜氏寄贈
A007592



染付四君子文針木形皿

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
6点
高3.1 口径12.2
底径6.7
鬼頭聖宜氏寄贈
A007593



染付四君子文針木形猪口

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
6点
高6.0 口径5.8
底径3.1
鬼頭聖宜氏寄贈
A007594



染付四君子文針木形猪口

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
6点
高7.5 口径9.3
底径4.8
鬼頭聖宜氏寄贈
A007595



染付四君子文蓋付碗

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
6点12パーツ
総高7.7(蓋高3.0)
口径11.6 蓋径10.5
底径4.5(蓋底径4.0)
鬼頭聖宜氏寄贈
A007596



染付四君子文火入

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点
高9.3 口径10.7
胴径11.2 底径7.1
鬼頭聖宜氏寄贈
A007597



染付四君子文鉢

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点
高9.9 口径18.7
底径7.7
鬼頭聖宜氏寄贈
A007598



磁胎蒔絵龍文染付
宝尽文三段重箱

瀬戸窯
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点4パーツ
高17.8
蓋口径12.1×12.1
身口径11.8×12.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007599



磁胎蒔絵竹に鶏文染付
草花文蓋付菓子器

川本半助(伝・四代)／
川本半助(伝・五代)／
川本半助(伝・六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点2パーツ
総高10.0 口径22.1
胴径24.9 底径18.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007600



磁胎蒔絵宝尽文
染付鶴文蓋付碗

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
5点10パーツ
総高6.5 蓋高2.9
身高4.6 蓋口径8.3
身口径9.5 蓋底径3.4
身底径3.9
鬼頭聖宜氏寄贈
A007601



磁胎蒔絵捻文染付
水禽文蓋付碗

川本半助(伝・四代)／
川本半助(伝・五代)／
川本半助(伝・六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
5点10パーツ
総高9.4 蓋高2.9
身高7.0 蓋口径8.5
身口径9.1 蓋底径3.5
身底径5.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007602



磁胎蒔絵宝相華文
染付宝尽文棗

川本半助(四代)／
川本半助(五代)／
川本半助(六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点2パーツ
総高6.4 口径5.4
胴径6.4 底径3.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007603



磁胎蒔絵龍文棗

川本半助(伝・四代)／
川本半助(伝・五代)／
川本半助(伝・六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点2パーツ
総高6.1 口径5.7
胴径6.4 底径3.5
鬼頭聖宜氏
A007604



磁胎蒔絵秋草文
染付鳳凰文棗

川本半助(伝・四代)／
川本半助(伝・五代)／
川本半助(伝・六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点2パーツ
総高7.7 口径6.5
胴径7.2 底径3.3
鬼頭聖宜氏寄贈
A007605



磁胎蒔絵根引松に
鶴文染付桃花文蓋物

川本半助(伝・四代)／
川本半助(伝・五代)／
川本半助(伝・六代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点2パーツ
総高7.2 口10.8×9.7
幅12.6×10.7
底径7.7×6.5
鬼頭聖宜氏寄贈
A007606



磁胎七宝草花文赤絵
金彩染付瓔珞文鉢

川本半助(伝・六代)
明治時代初期
(19世紀中期)
1点
高8.9 口径14.2
底径6.2
鬼頭聖宜氏寄贈
A007607



染付竹と漢詩文花瓶

川本榊吉(初代)／
大出東皐
明治3-13年
(1870-80)
一対2点
左:高30.6 口径12.6
胴径18.4 底径12.4
右:高31.2 口径12.5
胴径18.4 底径12.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007608



染付捻文鉢

川本榊吉(初代)／
川本榊吉(二代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
1点
高12.7 口径24.5
底径10.4
鬼頭聖宜氏寄贈
A007609



染付捻文皿

川本榊吉(初代)／
川本榊吉(二代)
江戸時代後期
(19世紀中期)
5点
高2.4 口径11.3
底径5.3
鬼頭聖宜氏寄贈
A007610



染付四君子文四脚付三段重箱

加藤紋右衛門(六代)
明治時代中期
(19世紀中期-20世紀初頭)
1点4パーツ
高25.5(最下段9.4、中段及び上段6.0)
口径15.0×15.1
胴径15.5×16.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007611



瑠璃釉貼付色繪猩々文水壺

加藤紋右衛門(六代)
明治時代中期
(19世紀中期-20世紀初頭)
1点
高26.3 口径28.1
底径16.1
鬼頭聖宜氏寄贈
A007612



染付繪替六角皿

加藤周兵衛(初代)／
加藤周兵衛(二代)
明治時代中期-大正時代
(19世紀中期-20世紀前期)
10点
高3.1
口径12.9×11.2
底径7.8×6.9
鬼頭聖宜氏寄贈
A007613



染付葵文把手付蓋物

加藤周兵衛(二代)
明治時代中期-大正時代
(19世紀中期-20世紀前期)
1点2パーツ
総高11.8
口径15.0×15.0
幅19.8
鬼頭聖宜氏寄贈
A007614



染付鳳凰唐草文楕円皿

加藤周兵衛(二代)
明治時代中期-大正時代
(19世紀中期-20世紀前期)
1点
高4.6
口径43.0×30.5
底径29.6×20.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007615



染付花唐草文輪花皿

加藤周兵衛(二代)
明治時代中期-大正時代
(19世紀中期-20世紀前期)
1点
高5.8
口径26.1×26.1
底径15.5×14.1
鬼頭聖宜氏寄贈
A007616



染付瑞鳥文蓋付双耳壺

加藤周兵衛(二代)
明治時代中期-大正時代
(19世紀中期-20世紀前期)
1点2パーツ
総高29.4 口径13.8
胴径20.4 底径12.0
鬼頭聖宜氏寄贈
A007617



麦藁手片口大鉢

瀬戸窯
江戸時代末期-明治時代
前期(19世紀後期)
1点
高9.4
口径19.0×19.3
底径9.0
松浦繁蔵氏
A007618



麦藁手片口小鉢

瀬戸窯
江戸時代末期-明治時代
前期(19世紀後期)
1点
高5.2
口径10.3×10.8
底径5.0
松浦繁蔵氏寄贈
A007619



麦藁手入子片口

瀬戸窯
江戸時代後期
(19世紀中期)
5点組
大:口径18.0×18.5
中大:口径16.5×15.9
中:口径14.4×13.5
中小:口径12.6×12.1
小:口径10.4×10.2
松浦繁蔵氏寄贈
A007620



木賊手蓋付碗

瀬戸窯
江戸時代後期
(19世紀中期)
2点:身蓋4パーツ
蓋:高2.9 口径9.6
鈕径4.3
身:高6.1 口径11.5
底径4.9
松浦繁蔵氏寄贈
A007621



木賊手蓋付碗

瀬戸窯
江戸時代後期
(19世紀中期)
5点:身蓋10パーツ
蓋:高2.8 口径9.3
鈕径3.9
身:高6.0 口径11.2
底径4.4
松浦繁蔵氏寄贈
A007622



木賊手蓋付碗

瀬戸窯
江戸時代末期-明治時
代前期 (19 世紀後期)
5 点:身蓋 10 パーツ
蓋:高 2.9 口径 10.0
鈕径 3.9
身:高 6.4 口径 12.0
底径 4.6
松浦繁蔵氏寄贈
A007623



麦藁手徳利

瀬戸窯
江戸時代後期
(19 世紀中期)
1 点
器高 17.0 口径 4.0
胴径 6.4 底径 5.1
松浦繁蔵氏寄贈
A007624



麦藁手信玄弁当

瀬戸窯
江戸時代後期
(19 世紀中期)
1 点:身・中蓋・蓋 3 パーツ
総高 14.5 胴径 15.8
底径 6.0/
蓋:高 4.7 底径 13.5/
中蓋:高 2.8 胴径 13.5
底径 12.5/ 身:高 8.7
口径 13.5 底径 6.0
松浦繁蔵氏寄贈
A007625



麦藁手壺

瀬戸窯
明治時代
(19 世紀後期)
1 点
高 21.4
口径 23.0×24.0
底径 17.7
高台内径 15.2
松浦繁蔵氏寄贈
A007626



白地草花絵扁壺

伝・奥田誠一旧蔵
河井寛次郎
1939 年頃
1 点
高 22.3 口径 6.7×7.8
胴径(最大径)9.2×14.5
底径 6.0×9.5
加藤慶郎氏寄贈
A007627



「草花図鉢」
青磁筒描草花文鉢

伝・奥田誠一旧蔵
河井寛次郎
1935-66 年
1 点
高 4.2 口径 21.0
高台径 9.0
加藤慶郎氏寄贈
A007628



鉄釉松文肩衝茶入

諏訪蘇山(初代)
1917-22 年
1 点
高(蓋なし)8.4
口径 3.3 胴径 6.0
底径 3.2
加藤慶郎氏寄贈
A007629



黄瀬戸水指

加藤唐三郎(十代)
明治 41 年-昭和初期
(1908-30)頃
1 点
高 13.9 口径 15.0
底径 11.8
加藤慶郎氏寄贈
A007630



「色絵袋形鉢」
色絵鳳牡丹文雪輪形鉢

加賀月華
大正 11-昭和 12 年
(1922-37)
1 点
高 9.8 口径 17.5
高台径 7.2
加藤慶郎氏寄贈
A007631



Bernoulli Diamonds

井戸真伸
令和 4 年(2022)
1 点
高 5.4 口径 39.3
底径 9.8
作者寄贈
A007632



黄瀬戸鉢

林恭助
令和元年(2019)
1 点
高 21.1 幅 53.8
底径 10.8
作者寄贈
A007633



雫 -shizuku-

吉川正道
昭和 63-平成元年
(1988-89)頃
2 点
高 73.8 直径 91.0/
高 75.3 直径 88.7
作者寄贈
A007634



かたまり -katamari
ザムザ氏のスツールー

吉川正道
平成元年(1988)頃
1点
高 30.0 幅 21.5
奥行 21.0
作者寄贈
A007635



浮彫海の幸文花瓶

帶山与兵衛(八代) /
帶山与兵衛(九代)
明治 10 年代前後
(1877)
2点
左:高 45.8 口径 18.6
胴径 29.7 底径 17.8 /
右:高 45.9 口径 18.9
胴径 30.1 底径 17.5
楠部敦子氏寄贈
A007636



彩埴
桔梗飾皿

楠部彌弼
昭和 12 年(1937)頃
1点
高 3.0 幅 25.0
底径 18.5
楠部敦子氏寄贈
A007637



彩埴
釉裏紅仙果飾皿

楠部彌弼
昭和 12 年(1937)頃
1点
高 2.8 幅 26.1
底径 19.2
楠部敦子氏寄贈
A007638



六角型花瓶

バーナード・リーチ
1969 年
1点
高 25.8 幅 14.5×14.3
口径 6.0
玉井良胤氏寄贈
A007639



丸胴花瓶

ジャネット・リーチ
1967 年
1点
高 32.4 口径 16.9
玉井良胤氏寄贈
A007640



花器

林康夫
昭和 27 年(1952)頃
1点
高 37.5 幅 38.3×40.0
作者寄贈
A007641



作品名不詳

林康夫
昭和 34 年(1959)頃
1点
高 7.2 幅 17.4×14.6
作者寄贈
A007642



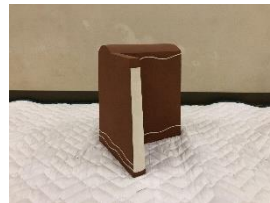
作品名不詳

林康夫
昭和 38 年(1963)頃
1点
高 28.5 幅 34.4×33.7
作者寄贈
A007643



輪

林康夫
昭和 45 年(1970)
1点
高 37.0 幅 20.0×30.0
作者寄贈
A007644



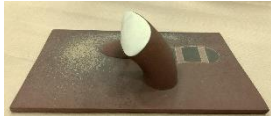
Wall A

林康夫
昭和 53 年(1978)
1点
高 35.0 幅 30.0×25.8
作者寄贈
A007645



作品 80-2

林康夫
昭和 55 年(1980)
1点
高 42.5 幅 39.0
奥行 18.5
作者寄贈
A007646



Rising White Object

林康夫
昭和 55 年(1980)
1 点
高 10.5 幅 33.5
奥行 21.0
作者寄贈
A007647



Refraction B

林康夫
昭和 60 年(1985)
1 点
高 36.0 幅 38.8
奥行 40.0
作者寄贈
A007648



寓舎「ブルーの座」

林康夫
平成 20 年(2008)
1 点
高 33.6 幅 30.6
奥行 11.5
作者寄贈
A007649



寓舎「12-2」

林康夫
平成 24 年(2012)
1 点
高 40.0 幅 25.0
奥行 19.0
作者寄贈
A007650



記録と記憶 B

林康夫
平成 27 年(2015)
1 点
高 20.0 幅 40.3
奥行 17.3
作者寄贈
A007651



**色絵金彩富士風景
桜文ティーセット**

杉森陶器
1960-80 年代
5 点 10 パーツ
(カップ&ソーサー 2 点
4 パーツ/ティーポット
1 点 2 パーツ/シュガ
ーポット 1 点 2 パーツ
/ミルクポット 1 点 2 パ
ーツ)

カップ:高 5.7 口径 8.2
幅 10.9 底径 4.3/
ソーサー:高 2.0
口径 13.2 底径 9.1/
ティーポット:高 12.2
口径 9.6 幅 20.0
底径 8.0/
シュガーポット:高 8.2
口径 7.4 幅 15.2
底径 6.8/
ミルクポット:高 8.3
口径 7.2 幅 13.7
底径 6.9
一般財団法人 名古屋
陶磁器会館寄贈
A007652



猫の親子チェーン付き

谷川製陶所
1960-70 年代
1 点 10 パーツ(親猫 1 点、
子猫 8 点、チェーン 1 点)
親猫:高 7.2 奥行 3.2
幅 6.8/
子猫:高 2.0 奥行 1.0
幅 2.0 /
全長:高 7.2 奥行 3.2
幅 40.0
加藤勇夫氏寄贈
A007653



**TIFFANY カップアンド
ソーサー<MRS.
DELANY'S FLOWERS>**

小林陶器株式会社
昭和 55 年(1980)頃
4 点 8 パーツ
カップ:高 6.1
口径 6.4 幅 8.4
底径 6.0/
ソーサー:高 1.3
口径 13.0 底径 7.2
小林陶器株式会社寄贈
A007654



**TIFFANY ディナー皿
<MRS. DELANY'S
FLOWERS>**

小林陶器株式会社
昭和 55 年(1980)頃
1 点
高 2.8 口径 30.7
底径 18.0
小林陶器株式会社寄贈
A007655



**TIFFANY マグカップ
<IMPERIAL>**

小林陶器株式会社
平成 4 年(1992)
1 点
高 2.8 口径 30.7
底径 18.0
小林陶器株式会社寄贈
A007656



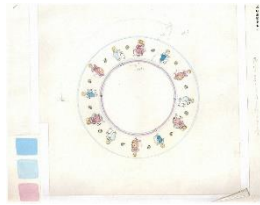
**Christian Dior
マグカップ
<LESENFANTS>**

小林陶器株式会社
昭和 62 年(1987)頃
1 点
高 8.6 幅 10.3
口径 8.0 底径 4.6
小林陶器株式会社寄贈
A007657



Christian Dior セット
<LES ENFANTS>
デザイン画

小林陶器株式会社
1点
35.8×31.9
小林陶器株式会社寄贈
A007658



Christian Dior 皿
<LES ENFANTS>
デザイン画

小林陶器株式会社
1点
37.8×31.4
小林陶器株式会社寄贈
A007659



Christian Dior
ディナー皿
<BROCHE>

小林陶器株式会社
平成元年(1989)頃
1点
口径 27.6 高 2.3
底径 16.3
小林陶器株式会社寄贈
A007660



Christian Dior
ケーキ皿
<BROCHE>

小林陶器株式会社
平成元年(1989)頃
1点
口径 19.5 高 2.0
底径 11.4
小林陶器株式会社寄贈
A007661



Christian Dior
カップアンドソーサー
<BROCHE>

小林陶器株式会社
平成元年(1989)頃
1点 2 パーツ
カップ:口径 8.0
最大幅 10.1 高 5.2
底径 7.2/
ソーサー:口径 14.3
高 2.5 底径 6.2
小林陶器株式会社寄贈
A007662



Christian Dior
小皿<BROCHE>

小林陶器株式会社
平成元年(1989)頃
1点
口径 12.5 高 1.5
底径 8.2
小林陶器株式会社寄贈
A007663



Christian Dior
<BROCHE>デザイン画

小林陶器株式会社
平成元年(1989)頃
4点
01:29.2×21.5/
02:ティーポット:29.7×21.5/
03:カップ:29.7×21.5/
04:(01 コピー):25.7×
37.0
小林陶器株式会社寄贈
A007664



Ab07
フィギュリン<イングリッシュ
コッカーズパニエル>

ロイヤル・ドルトン
1930-93 年頃
1点
高 4.9 幅 14.2
奥行 9.8
高円宮妃久子殿下寄贈
A007665



Ae13
フィギュリン<Home again
やっと帰ってきたよ>

ロイヤル・ドルトン
1955 年
1点
高 8.5 幅 7.9 奥行 8.8
高円宮妃久子殿下寄贈
A007666



Ab16
フィギュリン
<スコティッシュテリア>

ロイヤル・ドルトン
1930-93 年
1点
高 5.4 幅 6.0
奥行 3.6
高円宮妃久子殿下寄贈
A007667



Ae09
ジャック・ラッセル・テリア
のペーパーウェイト

ロイヤルクラウンダービー
2005 年
1点
高 11.8 幅 7.2
高円宮妃久子殿下寄贈
A007668



Aa09
フィギュリン
<イングリッシュセッター>

ベスウィック
1955-72 年
1点
高 14.1 幅 23.4
奥行 4.7
高円宮妃久子殿下寄贈
A007669



フィギュリン
＜犬のピクルス＞

ベスウィック
1971年
1点
高 11.9 幅 4.4
奥行 5.2
高円宮妃久子殿下寄贈
A007670



フィギュリン
＜チワワ＞

ベスウィック
1955-72年
2点
左:高 6.9 幅 8.1
奥行 5.6 / 右:高 6.9
幅 7.6 奥行 5.6
高円宮妃久子殿下寄贈
A007671



フィギュリン
＜アイリッシュセッター＞

ロモノーソフ
1950-60年代
1点
高 9.7 幅 22.7
奥行 6.1
高円宮妃久子殿下寄贈
A007672



フィギュリン
＜ダックスフンド＞

デザイン:リサ・ラーソン
/グスタフスベリ
1972年
1点
高 7.8 幅 15.0
奥行 5.1
高円宮妃久子殿下寄贈
A007673



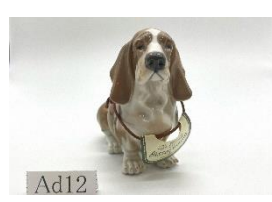
フィギュリン
＜ボルゾイ＞

ピングオーグレンダール
1915-47年
1点
高 11.7 幅 24.0
奥行 11.7
高円宮妃久子殿下寄贈
A007674



フィギュリン
＜少年とブルドッグ＞

ピングオーグレンダール
1970年代
1点
高 9.6 幅 12.1
奥行 10.3
高円宮妃久子殿下寄贈
A007675



フィギュリン
＜バセットハウンド＞

ロイヤル・コペンハーゲン
1998年
1点
高 11.5 幅 8.0
奥行 15.4
高円宮妃久子殿下寄贈
A007676



フィギュリン
＜イングリッシュ・ポインター＞

ロイヤル・コペンハーゲン
2000年
1点
高 5.4 幅 9.7
奥行 9.8
高円宮妃久子殿下寄贈
A007677



フィギュリン
＜バセット・ハウンド＞

リヤドロ
1977-84年
1点
高 8.0 幅 3.6
奥行 6.9
高円宮妃久子殿下寄贈
A007678



フィギュリン
＜シュナウザー＞

アウガルテン
1924-70年代
1点
高 7.9 幅 5.1
奥行 3.4
高円宮妃久子殿下寄贈
A007679



フィギュリン
＜ウェルシュ・テリア＞

ゴールドシャイダー
1922-42年
1点
高 16.8 幅 28.4
奥行 12.2
高円宮妃久子殿下寄贈
A007680



子犬と小鳥の灰皿

プフェファー磁器ファイ
アンス工場
1900-34年
1点
高 4.7 幅 13.6
奥行 10.2
高円宮妃久子殿下寄贈
A007681



子犬のトレイ

プフェファー磁器ファイ
アンス工場
1900-34年
1点
高4.1 幅13.3
奥行9.8
高円宮妃久子殿下寄贈
A007682



フィギュリン
＜シェパード＞

プフェファー磁器ファイ
アンス工場
1900-34年
1点
高10.6 幅11.9
奥行21.7
高円宮妃久子殿下寄贈
A007683



フィギュリン
＜ダックスフンド＞

プフェファー磁器ファイ
アンス工場
1900-34年
1点
高16.6 幅20.5
胴径奥行16.6
高円宮妃久子殿下寄贈
A007684



フィギュリン
＜スコッチテリア＞

ゲーベル
1935-49年
1点
高7.2 幅6.0
奥行8.9
高円宮妃久子殿下寄贈
A007685



フィギュリン
＜ジャック・ラッセル・テリア＞

ゲーベル
1935-49年
1点
高13.2 幅5.6
奥行6.0
高円宮妃久子殿下寄贈
A007686



フィギュリン
＜ドーベルマン＞

ゲーベル
1979-90年
1点
高8.1 幅5.0
奥行19.4
高円宮妃久子殿下寄贈
A007687



フィギュリン
＜プードル＞

ローゼンタール
1915-47年
1点
高18.5 幅6.7
奥行21.9
高円宮妃久子殿下寄贈
A007688



フィギュリン＜子ども
とセントバーナード＞

ローゼンタール
1936年
1点
高16.2 幅14.8
奥行10.6
高円宮妃久子殿下寄贈
A007689



フィギュリン
＜ドーベルマン＞

アルテサニア・リンコナダ
1972-80年頃
1点
高10.6 幅7.7
奥行10.0
高円宮妃久子殿下寄贈
A007690



シェパードの灰皿

不詳
1928-70年代
1点
高9.0 幅11.0
奥行8.7
高円宮妃久子殿下寄贈
A007691



フィギュリン
＜歯痛のテリア＞

不詳
1928-70年頃
2点
左:高8.0 幅5.0
奥行4.5/
右:高7.3 幅3.4
奥行7.0
高円宮妃久子殿下寄贈
A007692



犬の灰皿

不詳
1928-70年代
1点
高9.0 幅8.4
奥行11.4
高円宮妃久子殿下寄贈
A007693



置物
＜秋田犬の親子＞

有田か
1960-70年代
1点2パーツ
親犬:高13.5 幅15.2
奥行8.3 / 子犬:高7.9
幅9.3 奥行3.8
高円宮妃久子殿下寄贈
A007694



Neo Jomon:Haniwa -
Majin-

岩村遠
令和2年(2020)
1点4パーツ
高190.0 幅116.0
奥行52.5
牧寛之氏寄贈
A007695



Wreck of Time 90

三島喜美代
平成2年(1990)
16点
高53.0
幅110.0×110.0
上田磨子氏寄贈
A007696



青華磁鯉魚之図花瓶

清風与平(三代)
明治26-大正3年
(1893-1914)
1点
高43.5 口径15.4
胴径26.2 底径14.0
吉田和夫氏寄贈
A007697



青釉陽刻雲文花瓶

清風与平(三代)
明治後期-大正3年
(~1914)
1点
高35.3 口径18.4
胴径10.4 底径15.4
吉田和夫氏寄贈
A007698



菊模様水指

伊東陶山(初代)
明治後期-大正期
(~1920)
1点
高15.9 幅22.9×16.9
蓋:高4.2
幅23.8×17.6
総高19.4
吉田和夫氏寄贈
A007699



上絵金彩蒔絵写
菊花散文花瓶

伊東陶山(初代)
明治後期-大正期
(~1920)
1点
高30.1 口径6.1
胴径18.4 底径9.3
吉田和夫氏寄贈
A007700



上絵金彩青地白盛
桐文鶴首花瓶

伊東陶山(初代)
明治後期-大正期
(~1920)
1点
高61.9 口径12.5
胴径27.6 底径15.6
吉田和夫氏寄贈
A007701



上絵金彩陽刻鷹
桜樹図花瓶

井上良斎(初代)
明治前期(19世紀)
2点
左:高32.8 口径
12.9 幅18.0×16.9
底径10.3
右:高33.5 口径
13.1 幅19.0×17.5
底径10.5
吉田和夫氏寄贈
A007702



釉下彩陽刻芙蓉図
花瓶

井上良斎(二代)
明治後期(20世紀)
1点
高27.5 口径10.8
胴径12.4 底径8.5
吉田和夫氏寄贈
A007703



釉下彩樹下駱駝
人物図花瓶

井上良斎(二代)
明治後期(20世紀)
1点
高44.5 口径22.2
胴径30.6 底径18.8
吉田和夫氏寄贈
A007704

③ 資料収集状況及び計画

(2025年3月31日現在)

区 分	既収集資料点数			収 集 計 画	
	総点数	購入点数	受贈点数		
日 本 陶 磁	縄文時代	63	49	14	縄文時代6期の各期の特徴的な資料及び造形的に優れた名品。
	弥生時代	26	21	5	弥生時代前期・中期・後期を代表する資料及びバレススタイルの土器群。
	古墳時代	105	79	26	土師器・埴輪及び須恵器。
	奈良時代	103	68	35	土師器・須恵器・奈良三彩及び瓦。
	平安時代前期～後期	91	37	54	猿投窯をはじめとする各地の須恵器・青瓷・白瓷。
	平安時代末期～ 鎌倉・室町時代	547	285	262	渥美・常滑・瀬戸・珠洲・越前・信楽・丹波・備前等の中世窯製品。
	桃山時代	121	80	41	瀬戸黒・黄瀬戸・志野・織部・伊賀・備前・唐津等の茶陶類。
	江戸時代	1,236	387	849	瀬戸・美濃・常滑・萬古や名古屋等の東海地方の諸窯。有田等の肥前陶磁、仁清・乾山等の京焼をはじめとする日本各地の製品。
	近現代陶磁	1,466	130	1,336	近代陶芸の基礎を築いた明治期の名工たちの作品。現代陶芸作家の作品及び著名公募展優秀作品。
	近現代産業陶磁	1,412	131	1,281	明治期の輸出陶磁器類及び窯業の近代化を物語る資料。ファインセラミックス及び現代陶磁器産業の製品。
小 計	5,170	1,267	3,903		
外 国 陶 磁	中国陶磁	907	62	845	日本の陶磁器の源流である中国・朝鮮半島の陶磁器及び世界各地の資料。
	韓国・東南アジア陶磁	295	53	242	
	中近東陶磁	196	19	177	
	ヨーロッパ陶磁	94	6	88	
	その他の外国陶磁	759	0	759	
	近現代陶磁	68	41	27	
	近現代産業陶磁	195	48	147	
	小 計	2,514	229	2,285	
関 連 資 料	922	12	910	ガラス・七宝などの窯業製品及び制作工程の資料や民俗資料。	
内 2024 年度収集資料点数	170	6	164	内所蔵陶磁資料・学芸課管理番号 A-7535～A-7704	
合 計	8,606	1,508	7,098		

※「鎌倉・室町時代」の受贈点数には、国から譲渡された埋蔵文化財 50 点を含む。

※「近現代陶磁」及び「近現代産業陶磁」の受贈点数には、本県会計局(前出納事務局)から区分替えされた資料 8 点を含む。

※近現代陶磁の受贈点数は、貸出中における亡失(平成 17 年 3 月)のため、1 点少なくなっている。

④ 所蔵指定文化財

指定区分/種別	指定名称	員数	指定年月日	収集区分/年度
国・重要文化財/工芸品	猿投灰釉多口瓶	1口	1975.6.12	寄贈 1993年度
国・重要文化財/工芸品	渥美灰釉芦鷺文三耳壺	1口	1976.6.5	寄贈 1979年度
国・重要文化財/工芸品	陶製五輪塔 久安二年の刻銘がある	1基	1995.6.15	購入 1991年度
国・重要美術品/工芸品 愛知県指定文化財/工芸品	鉄釉巴文瓶子	1口	1935.5.10 1984.2.27	購入 1978年度
愛知県指定文化財/工芸品	陶製牡丹文経筒外容器	1口	1984.2.27	購入 1974年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉短頸壺	1口	1984.2.27	購入 1978年度
愛知県指定文化財/考古資料	猿投灰釉短頸壺及び平瓶	各1口	1984.2.27	寄贈 1981年度
愛知県指定文化財/有形民俗文化財	陶製狛犬コレクション	210 駆	1984.3.30	寄贈・購入 1976他
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉手付長頸瓶	1口	2021.8.6	寄贈 2019年度
愛知県指定文化財/工芸品	猿投灰釉長頸瓶	1口	2021.8.6	購入 2008年度
愛知県指定文化財/工芸品	灰釉蕨手文手付水注	1口	2025.1.31	購入 2020年度



猿投灰釉多口瓶



渥美灰釉芦鷺文三耳壺



陶製五輪塔 (久安二年刻銘)

⑤ 愛知用水関連資料および南山8・9号窯資料

資料名称	内 訳	数 量	概 要
愛知用水関連資料 一括	完形資料	118件119点	1955年から1962年にかけて、愛知用水建設に関連して、愛知県教育委員会が名古屋大学に委託して発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	重要陶片資料	33件190点	
	一般陶片資料	99件5,455箱	
南山8・9号窯資料 一括	重要陶片資料	134点	1991年に、当館第1駐車場の造成工事に関連して、当館が発掘調査を行った古窯跡の出土文化財
	一般陶片資料	257箱	

⑥ 図書室

陶磁史、考古学、展覧会図録を中心とする図書等を所蔵。学芸員等の調査研究のために利用すると共に、研究を目的とする希望者に長期休館前まで一般開放を行った。

図書資料 収集状況

2024年度	購入図書	寄 贈 図 書		合 計
		寄付受入	交換図書他	
冊 数	0冊	0冊	690冊	690冊
累 計	1,849冊	11,721冊	52,811冊	66,381冊

(2) 資料活用

① 他館展覧会等への作品貸与・出品

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
1	4.1- 2025.3.31	志野鶴の絵茶碗	A000015	9 点	愛知県政策企画局	愛知県知事公館内展示
2		紅白梅茶碗	A000031			
3		黒織部茶碗	A000828			
4		染付孔雀牡丹文鉢	A000974			
5		双耳瓶子	A001526			
6		灰釉平碗	A001529			
7		赤絵帆船図皿	A002519			
8		志野平水指	A002728			
9		昔のでんわ	A003514			
10	4.1- 2025.3.31	鉄釉茶碗	A001767	7 点	愛知県議会事務局	愛知県議会議長室
11		御深井陰刻牡丹唐草文角形香炉	A001351			
12		赤絵魚草文鉢	A002537			
13		染付丸文牛図火入一対	A003465			
14		絵志野平茶碗	A000005			
15		黄瀬戸茶碗	A000019			
16		朱泥茶注	A005435			
17	4.1- 2025.3.31	井ヶ谷 67 号窯 (IG-67) 出土資料一括	愛知用水 関連資料	4 点	刈谷市歴史博物館	井ヶ谷古窯の調査研究
18		井ヶ谷 78 号窯 (IG-78) 出土資料一括				
19		須恵器 高盤				
20		須恵器 陶馬片				
21	5.24-9.6	黒地素三彩四季花図方瓶	A001387	77 点	アサヒグループ 大山崎山荘美術館	「愛知県陶磁美術館コレクション 中国やきもの 7000 年の旅—大山崎山荘でめぐる陶磁器ヒストリー」／アサヒグループ大山崎山荘美術館
22		紅陶尖底双耳瓶	A007285			
23		白陶鬶	A003613			
24		彩陶双耳壺	A005328			
25		馬鞍形口双耳壺	A006067			
26		石斧	H-2			
27		玉璋	H-10			
28		玉魚形飾	H-21-1,2			
29		玉獸面穀文璧	H-33			
30		玉獸首帶鉤	H-38			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
31		黒皮陶双鼻壺	A007286			
32		卵殻黒陶単耳壺	A006081			
33		灰陶鬲	A005734			
34		加彩女子俑	A003890			
35		原始青磁鉢	A003105			
36		灰陶竈	A004328			
37		緑釉爐	A004332			
38		緑釉作坊	A004305			
39		緑釉羊圈	A004311			
40		緑釉楼閣	A004289			
41		原始青磁印文尊	A002663			
42		原始青磁有蓋鼎	A006011			
43		灰陶加彩雲気文鍾	A002486			
44		緑褐釉温酒尊	A002487			
45		黒釉天鵝壺	A004949			
46		白陶長頸瓶	A006030			
47		青磁盤口六耳壺	A006016			
48		青磁刻花花文洗	A004617			
49		緑釉四耳壺	A002492			
50		緑釉貼花忍冬文尊	A006078			
51		白磁碗	A004963			
52		青磁高脚杯	A004959			
53		青磁碗	A003130			
54		青磁褐彩蛙形水盂	A005340			
55		青磁鷄舎	A004339			
56		青磁神亭壺	A002664			
57		三彩武官俑	A006047			
58		白磁龍耳瓶	A002734			
59		三彩駱駝	A005391			
60		白磁万年壺	A005764			
61		三彩枕	A002488			
62		三彩鍍	A002490			
63		三彩碗	A002489			
64		白磁輪花盤	A006022			
65		白磁印花蓮花文盤	A002671			
66		青磁劃花牡丹文輪花碗	A002626			
67		青磁碗	A003050			
68		青磁蓮弁文碗	A003155			
69		青磁四耳壺	A003985			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
70		青磁印花牡丹文盤	A006020			
71		青磁貼花蓮花文香炉	A002672			
72		緑釉皮囊壺	A006043			
73		三彩牡丹文海棠形盤	A006051			
74		白地黒搔落牡丹文梅瓶	A006059			
75		黄釉褐彩貼花葡萄文水注	A002956			
76		黄釉緑褐彩草花文碗	A004965			
77		青白磁水注	A005350			
78		青白磁牡丹唐草文梅瓶	A005209			
79		兔毫盞	A002752			
80		玳皮盞	A003149			
81		澱青釉紅斑碗	A004994			
82		青花牡丹文壺	A002684			
83		青花鳳凰文梅瓶	A003064			
84		五彩花鳥図盤	A001003			
85		五彩人物図盤	A002441			
86		青花芙蓉手盤	A002668			
87		五彩花鳥図盤	A001388			
88		五彩魚文盤	A001204			
89		朱泥茶銚	A004090			
90		青花山羊文茗碗	A004089			
91		青花唐子図茶心壺	A003217			
92		黒釉有蓋水注	A002766			
93		青花烹茗図盤	A003191			
94		交趾三彩鳥形合子	A002779			
95		交趾三彩菊文合子	A002986			
96		青花向付	A004998			
97		豆彩花文馬上杯	A003224			
98	11.13- 2025.6.6	染付鐘形瓶	A001866	1点	兵庫陶芸美術館	「東山焼と姫路のやきもの」／兵庫陶芸美術館
99	12.16-	鉄釉狛犬 阿	A000667	4点	熱田神宮宝物館	「吉兆の神獣～神話から現代まで」／熱田神宮宝物館
100	2025.6.14	鉄釉狛犬 吽	A000668			
101		鉄釉狛犬 阿	A000673			
102		鉄釉狛犬 吽	A000674			
103	2025.3.15	象のブックエンド	A007288	2点	株式会社アルフレックス ジャパン	「ジオ・ポンティの眼：軽やかに越境せよ」／21_21 DESIGN SIGHT Gallery3 (東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン)
104	-4.10	天使像	A007289			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
105	9.1-12.1	古染付写雲鶴文手桶形水指	A000749	4点	瀬戸市美術館	特別展「瀬戸染付一軌跡そして技と美」／瀬戸市美術館
106		染付山水文筆筒	A001354			
107		染付四君子文二段重	A002387			
108		染付松竹梅文茶碗	A006984			
109	4.27-6.9	猿投窯 井ヶ谷78号窯跡出土 平安時代初期（8世紀末～9世紀初頭）	愛知用水 関連資料	1点	刈谷市歴史博物館	開館5周年記念企画展 「めでたきとり」 ／刈谷市歴史博物館 ※資料自体は長期貸出中
110	6.1- 2025.3.3	青瓷 素地 椀蓋	愛知用水 関連資料	12点	みよし市立歴史 民俗資料館	常設展「みよしの古窯」 展／みよし市立歴史民 俗資料館
111		青瓷 素地 大椀				
112		青瓷 素地 中椀				
113		青瓷 素地 皿				
114		青瓷 素地 皿				
115		青瓷 素地 輪花広縁段皿				
116		青瓷 素地 高盤				
117		青瓷 素地 手付瓶				
118		青瓷 素地 四足壺				
119		青瓷 素地 大型突帯鉢				
120		青瓷 素地 陶枕				
121		白瓷 大椀(「内豎所」銘入)				
122	4.1- 2025.3.31	天目茶碗	愛知用水 関連資料	27点	瀬戸蔵ミュージアム	常設展「瀬戸焼の歩み」 ／瀬戸蔵ミュージアム
123		平底末広碗				
124		折縁小皿				
125		底卸目皿				
126		折縁深皿				
127		袴腰香炉				
128		筒形香炉				
129		柄付片口				
130		仏供				
131		長頸水注				
132		片口水瓶				
133		四耳壺				
134		梅瓶				
135		杯B(有高台)				
136		はそう				
137		平瓶				
138		平瓶				
139	椀					

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
140		小型椀				
141		深椀				
142		皿				
143		折縁皿				
144		長頸瓶				
145		広口瓶				
146		高盤				
147		大型壺				
148		片口鉢				

※当館保管資料を含む。

② 他館展覧会等への作品出品

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
1	6.17-7.26	琴を弾く男子	A002315	100点	安城市民 ギャラリー	市民ギャラリー特別 展「やきものの秘密 どうやってできる の? この色・かた ち ~愛知県陶磁美 術館コレクションよ り~」/安城市民ギ ャラリー
2		緑釉香炉	A000760			
3		灰釉平瓶	A001325			
4		灰釉菊花文瓶子	A000689			
5		灰釉魚文盤	A001654			
6		叩文壺	A002352			
7		鼠志野花文向付	A000152			
8		志野たんぽぽ文向付	A001560			
9		織部角向付	A001573			
10		鉄釉鴨形香合	A000102			
11		色絵金彩花盆文大皿	A000208			
12		鉄釉流大徳利	A000299			
13		色絵絵草紙文皿	A000820			
14		色絵木葉文深鉢	A001007			
15		染付雪輪文瓶	A001442			
16		白磁菊浮彫文菊形鉢	A002247			
17		緑釉雲龍文水壺	A003611			
18		三彩犬形水滴	A004259			
19		御深井 大根絵茶碗	Y000134			
20		緑釉流し碁盤形蓋物	Y000411			
21		黒茶碗 銘美男	Y000494			
22		ノベルティ「馬車」	A000801			
23		染付鳳凰唐草文蓋物	A001707			
24		ノベルティ製造用ケー ス型「鷹」	A002341			
25		ノベルティ「鷹」	A002389			
26		レース人形「マドモアゼル」	A002430			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
27		胡蝶蘭	A002667			
28		凸盛花文花瓶	A003068			
29		ノベルティ「3羽キングフ イッシャーとアイリス」	A003280			
30		ノベルティ「スプリンジ ャースパニエル」	A003292			
31		ノベルティ「ペルシア」	A003296			
32		ノベルティ「シャム2匹」	A003299			
33		ノベルティ「古木乗りロ ビン2羽」	A003301			
34		ノベルティ「コアラの親子」	A003758			
35		ノベルティ「SELF PORTRAIT」	A005113			
36		緑釉黒釉掛分皿	A005221			
37		青磁刻花花文盤	A002742			
38		黒釉搔落牡丹文梅瓶	A002763			
39		緑釉鍾	A003107			
40		青白磁刻花唐草文碗	A003144			
41		青白磁菊花形合子	A004974			
42		三彩印花花文碗	A005346			
43		粉彩百花文壺	A005353			
44		白磁俵形壺	A004242			
45		藍地金彩色絵幾何学文鉢	A002146			
46		緑釉搔落鳥文鉢	A002497			
47		ラスター彩鷺文鉢	A005800			
48		ラスター彩荷葉文水注	A005802			
49		金彩花文花器	A005807			
50		黄瀬戸輪花鉢	A000008			
51		志野波に千鳥絵鉢	A000028			
52		黒釉野牛盆	A000056			
53		白地黒絵双魚盆	A000057			
54		耳付花入	A000071			
55		黄地紅彩菊牡丹文角鉢	A000073			
56		木の葉天目大鉢	A000086			
57		釉下彩菊文双耳花瓶	A002222			
58		青瓷彫文壺	A002285			
59		青白磁華文水盤	A002323			
60		草白釉釉描金銀彩遠山夕 陽図八角大皿	A002328			
61		日本趣味解題・漂ウ共同 幻想体	A002414			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
62		宙	A002462			
63		黒いページのある聖書	A002463			
64		常滑自然釉茶注	A002623			
65		志埜茶盃	A003061			
66		苦闘する形態V-3	A003245			
67		青磁飾り壺「アフガン文水汲み」	A003981			
68		黄伊羅保茶碗	A004054			
69		信楽茶盃	A004652			
70		飴釉面取壺	A005130			
71		鉄釉丸文土瓶	A005132			
72		柿釉白流掛甕	A005140			
73		鉄釉カップ&ソーサー	A005172			
74		列なりのかたち	A005208			
75		白泥盛絵鶏図宝瓶	A005489			
76		卑弥呼の書	A005704			
77		藍彩紐飾手付花入	A005980			
78		一人あるきの風	A005996			
79		鈎窯耳付壺	A006002			
80		銀泥 陶壁の中のパイプ	A006145			
81		機関車	A006176			
82		色絵薄墨墨はじき草花更紗文額皿	A007173			
83		釉下彩ユリカモメ置物	Y000455-000503			
84		辰砂花瓶	Y000455-000519			
85		結晶釉花瓶	Y000455-000689			
86		透かし彫り香炉	Y000455-000726			
87		春霞	A007406			
88		瑠璃地金彩鶉図瓶	A007519			
89		瀬戸黒茶盃	A007438			
90		Work'91-3	A004647			
91		朱泥茶注	A002669			
92		三嶋手水滴	A007193-000181			
93		三嶋手兎文水滴	A007193-000184			
94		印花白泥象嵌木の葉小紋詰丸形水滴	A007193-000378			

No.	貸出期間	資料名称	備品 No.	点数	借用者	展覧会等の名称/会場
95		練込鯉形水滴	A007193-000481			
96		練込丸形水滴	A007193-000610			
97		練込手亀形水滴	A007193-000754			
98		練上手兎形水滴	A007193-000941			
99		銅版染付草花丸文繫鉢	Y000345			
100		ノベルティ「ギターをひく男と女」	A000992			

※寄託資料等を含む。

③ 所蔵資料の写真撮影等

No.	承認 年月日	資料名称	備品 No.	利用 方法	点数	申請者/掲載者	掲載誌等の名称
1	4.8	青磁鶏頭壺	A006014	SNS 等 掲載	80 点	アサヒグループ 大山崎山荘美術館	「愛知県陶磁 美術館コレク ション 中国 やきもの 7000 年の旅—大山 崎山荘でめぐ る陶磁器ヒス トリー」 アサヒグルー プ大山崎山荘 美術館
2		五彩宝相華唐草文盤	A002448				
3		三彩印花魚海老文盤	A002495				
80		*他 77 点は割愛 (①他館展覧会等 への作品貸与・出品 No.21~97 記載 参照)					
81	4.19	大甕	A001428	転載 掲載	1 点	吉川弘文館 編集部	杉山一弥編 『東海の中世 史 3 室町幕 府と東海の守 護』 印刷媒体書 籍、電子書籍
82	4.26	千条文挿座茶入	A002660	図版の 参考 展示	2 点	(公財) 瀬戸 市文化振興財 団	
83		建盞	A002752				
84	4.26	皮袋形瓶	A001243	SNS 掲載	1 点	名古屋大学人文 学考古学研究室 /陳永強	考古学研究会 第 70 回総会ポ スターセッシ ョン発表
85	5.15	城山古墳出土資料	A007192	熟覧	1 点	東海古墳時代 研究会/早野 浩二	
86	7.1	焼締急須	A005496	掲載	32 点	急須作家山本 広巳遺族/山本 啓子、山中康平	図録『急須作 家 山本広巳 の仕事』
87		焼締窯変急須	A005497				
88		焼締窯変急須	A005498				

No.	承認 年月日	資料名称	備品 No.	利用 方法	点数	申請者/掲載者	掲載誌等の名称
89		焼締窯変茶鉢	A005499				
90		朱泥急須	A005500				
91		焼締自然灰茶鉢	A005502				
92		朱泥茶鉢	A005503				
93		窯変茶鉢	A005505				
94		白泥茶鉢	A005507				
95		焼締茶鉢	A005509				
96		焼締白急須	A005512				
97		紫泥急須	A005515				
98		紫泥急須	A005516				
99		焼締窯変宝瓶	A005517				
100		窯変急須	A005519				
101		窯変急須	A005521				
102		焼締急須	A005524				
103		紫泥急須	A005527				
104		窯変急須	A005529				
105		焼締宝瓶	A005531				
106		焼締宝瓶	A005534				
107		紫泥急須	A005539				
108		紫泥急須	A005541				
109		烏泥急須	A005542				
110		青銅器写し茶鉢	A005544				
111		朱泥急須	A005545				
112		窯変茶鉢	A005548				
113		窯変茶鉢	A005549				
114		自然釉宝瓶	A005550				
115		窯変急須	A005551				
116		紫泥彫急須	A005553				
117	7.11	信楽壺 蹲	A004733	掲載	5点	株式会社里文 出版 編集部	月刊誌『目の 眼』2024年9 月号 特集信 楽 愛知県陶 磁美術館リニ ューアル記事等
118		信楽鬼桶水指	A004734				
119		鬼桶水指	A000248				
120		大甕	A003988				
121		檜垣文壺	A001338				
122	8.19	双耳深鉢	A000192	掲載	3件	株式会社国書 刊行会	『1000の縄 文』（仮） 国書刊行会
123		深鉢	A002679				
124		深鉢	A003272				
125	8.21	美濃古窯跡出土資料一括	A005212	掲載	1件	京都国立博物 館/尾野善裕	東洋陶磁学会 第50回大会 ポスターセッション

No.	承認 年月日	資料名称	備品 No.	利用 方法	点数	申請者/掲載者	掲載誌等の名称
126	8.9	風字硯	A002309	撮影 熟覧 実測 拓本 等	10 点	京都府教育庁 文化財保護課 ／井川瑞季	古代の陶硯の 研究（特に平 安時代の風字 硯を中心） 将来的に論文 化を予定
127		風字硯	A002310				
128		風字硯	Z1-38				
129		風字硯	Z1-46				
130		風字硯	Z1-50				
131		風字硯片	Z2-30-12				
132		風字硯片	Z2-30-13				
133		風字硯片	Z2-30-14				
134		風字硯片	Z2-30-10				
135		風字硯片	Z2-30-11				
136	8.21	染付山水文筆筒	A001354	掲載	4 点	公益財団法人 瀬戸市文化振 興財団	『瀬戸染付一 軌跡そして技 と美一』展 図録等印刷物
137		染付松竹梅文茶碗	A006984				
138		古染付写雲鶴文手桶形水指	A000749				
139		染付四君子文二段重	A002387				
140	9.2	青磁蓮弁文碗	A003155	掲載	2 点	筑波大学大学院 ／内田昌太郎	東洋陶磁学会 第 50 回大会 ポスターセッ ション
141		千条文櫃座茶入	A002660				
142	9.10	盛絵人物図バケツ	A003075	調査 撮影 掲載	10 点	学習院大学 ／東島李花	2025 年 1 月 提出の修士論 文
143		ラスター彩鷺文鉢	A005800				
144		色絵草花文本形手温器	A005081				
145		上絵金彩菊花文花瓶	A000318				
146		色絵花瓶	A000531				
147		赤釉花瓶	A000470				
148		エオシン釉花瓶	A000481				
149		エオシン釉小壺	A000583				
150		花瓶不詳	A000508				
151		色絵花瓶不詳	A000690				
152	9.13	鉄絵草花文緑釉散し鉢	A000137	熟覧 撮影	5 点	多治見市笠原 交流センター	「笠原鉢展」 （企画中）／ 多治見市笠原 交流センター2 階図書室内の 常設展示室
153		鉄絵草花文緑釉散し鉢	A000224				
154		鉄絵草花文緑釉散し鉢	A000286				
155		鉄絵草花文緑釉散し鉢	A001426				
156		緑釉流芦絵大鉢	A002436				
157	10.7	三彩魚藻文盤	A002495		1 点	阿部出版株式 会社	『炎芸術』 No.160 特集 「よみがえる 黄瀬戸(仮)」

No.	承認 年月日	資料名称	備品 No.	利用 方法	点数	申請者/掲載者	掲載誌等の名称
158	10.7	藍絵阿蘭陀写西洋風景図 硯蓋（「京阿蘭陀」）	A005203	掲載	1点	神戸市立博物館	『阿蘭陀焼』 （2011）展覧 会図録 『染付：青繪 の世界』 （2017）展覧 会図録
159	11.7	美濃古窯跡出土資料一括	A005212	掲載	1点	株式会社雄山閣	佐々木達夫編 『中近世陶磁 器の考古学』 第18巻
160	11.7	青磁刻花花文鉢	A002741	展示 図録 掲載	1点	公益財団法人 瀬戸市文化振 興財団	令和6年度企 画展『喫茶と せとやき』
161	11.8	染付鐘形瓶	A001866	掲載	1点	兵庫陶芸美術館	特別展「東山 焼と姫路のや きもの」印刷 物、広報媒体 への画像掲載
162	12.3	鉄釉狛犬 阿	A000667	掲載	4件	熱田神宮宝物館	新春特別展 「吉兆の神獸 ～神話から現 代まで～」展 覧会小冊子等 印刷物への掲 載
163		鉄釉狛犬 呷	A000668				
164		鉄釉狛犬 阿	A000673				
165		鉄釉狛犬 呷	A000674				
166	12.6	禁煙（禁煙の名人）	A006913	掲載	1点	カルチュア・ コンビニエン ス・クラブ株 式会社 『美術手帖』 編集部	『美術手帖』 2025年1月号
167	12.9	灰釉多口瓶	A002287	掲載	1点	サイネット株 式会社	開隆堂出版株 式会社 美術 科資料集「表 現と鑑賞」 （愛知県版）
168	12.9	鉄釉狛犬 阿	A000565	掲載	1点	瑞浪市 みず なみ未来部 スポーツ文化 課	瑞浪市政70周 年記念「瑞浪 市の文化財」 （令和6年12 月刊行予定）
169	12.9	人面付土器	A002010	掲載	1点	古井町史発行 委員会（古井 町内会）委員 長 岩瀬昭彦 （町内会長）	「古井町史 わがまち再発 見 古井の歴史 案内」古井町 史発行委員会 （令和7年2月発行予定）

No.	承認 年月日	資料名称	備品 No.	利用 方法	点数	申請者/掲載者	掲載誌等の名称
170	12.25	色絵菊文壺	A001660	掲載	3点	編集室 青人社	海外版「日本 伝統の配色事 典」
171		織部竹文三足皿	A001772				
172		鉄絵秋景図大皿	A001020				
173	2025.3.4	象のブックエンド	A007288	掲載	2点	株式会社アル フレックス ジャパン	「ジオ・ポン ティの眼：軽 やかに越境せ よ」/21_21 DESIGN SIGHT Gallary3（東 京ミッドタウ ン ミッドタ ウン・ガーデ ン）
174		天使像	A007289				

※寄託資料等、当館保管資料を含む。

(3) 資料保存

所蔵資料の保存・修復

盛田昌夫コレクション等7点の修復

2022年度に寄附を受けた盛田昌夫コレクション(イタリアのドッチャ窯及びリチャード ジノリの陶磁器)等の、過去の修復の劣化が比較的大きい作品を、修復師の加藤豊子氏に委託し、修復及び修復記録の作成を行った。

<修復作品>

- ・ディナープレート<ブーケと小花模様> 1780-1800年制作 3点
高3.5×口径30.0cm
- ・キャンディー・ボックス<イタリアンフルーツ> 1757-1792年制作 1点
高12.2×最大幅16.3cm
- ・カップ&ソーサー<ブーケ模様> 1757-1792年制作 1点
カップ:高6.7×最大幅7.2 ソーサー:高2.4×口径13.5cm
- ・シェルボックス<テンシノツバサガイ> 1980年代制作 1点
高4.9×最大幅12.9cm
- ・シェルボックス 1980年代 1点
高4.6×最大幅11.1cm

修復レポートより



修復前



修復後

(4) 資料公開

所蔵品管理システム (I. B. Museum Saas) の一般公開に向けての取り組み

これまで館職員のみが所蔵資料の管理に用いてきた所蔵品管理システム (I.B.Museum Saas) の一般公開を目指し、所蔵資料の撮影、作品解説を含む作品データ執筆と翻訳、音声ガイドデータの作成に取り組んだ。

これらの画像及びデータ等の一般公開の形としては、①長期休館明け(令和7年4月1日)に公式ウェブページ上で公開する所蔵品検索エンジン「愛陶オンラインミュージアム」と、②常設展内に配置する音声ガイドアプリ「ポケット学芸員」の2つの形をとる予定である。

なお本事業は、内閣府によるデジタル田園都市国家構想交付金を取得し、実施した。

所蔵資料の撮影: 280 カット

作品データ執筆と翻訳: 302 件

音声ガイドデータの作成: 286 件

4 調査・研究

(1) 猿投窯出土品調査研究

『猿投窯調査研究報告 第1集 令和6年度猿投窯出土品整理調査報告書（岩崎17号窯跡、折戸9号窯跡、黒笹12号窯跡、黒笹13号窯跡、折戸53号窯跡）』／2025.3

(2) 研究紀要

『愛知県陶磁美術館研究紀要30』を当館公式WEBページで刊行した。

・小川裕紀

「愛知やきものセレクション・その後－2020年代前半の県新規指定古陶磁－」／pp. 1-13

・田畑 潤

「展示記録「愛知県陶磁美術館コレクション 中国やきもの7000年の旅－大山崎山荘でめぐる陶磁器ヒストリー」」／pp. 14-40

(3) 研究論文等

大槻倫子

・「特集 信楽の佇まい「侘と寂をうつわにうつす古信楽のたたずまい」「信楽の最大の魅力 窯変の多彩な表情」」／『目の眼』No.576／2024.9／株式会社 目の眼

小川裕紀

・「やきものでみる中世愛知」／『日本史のなかの愛知県』／2024.5／山川出版社

田畑 潤

・「殷墟期における青銅礼器の副葬配置について」／『駒澤考古』第49号 飯島武次先生傘寿記念号／2024.5／駒澤大学考古学研究室

・「愛知県陶磁美術館 本館リニューアルオープン 新シュウ蔵品展 一美術館シュウシュウのあれこれ」／『陶説』No.858／2025.3／公益社団法人 日本陶磁協会

入澤聖明

・「融けて混ざる－その表現の現在地」／『若手作家紹介事業02 やきもの現代考－混融 Mixed Melting－』／2025.1／愛知県陶磁美術館、瀬戸市新世紀工芸館

・「「底に触れる 現代美術 in 瀬戸」を振り返る」／『国際芸術祭「あいち」地域展開事業 底に触れる 現代美術 in 瀬戸』／2025.2／国際芸術祭「あいち」地域展開事業実行委員会

・「特集 現代の陶芸 川端健太郎」／『美術手帖 No.1104』／2025.3／雑誌『美術手帖』編集部

・「二〇二二年度第四十九回大会－研究者から「現状と今後」瀬戸・美濃を中心とした中部圏の陶芸事情」／『東洋陶磁』第54号／2025.3／東洋陶磁学会

大西 遼

・「最近出土の陶磁トピックス（2023年1月～12月）(3) 東海地方」／『東洋陶磁学会会報』第103号／2025.1／東洋陶磁学会

・「窖窯焼成における自然釉－灰釉との関連とともに－」／『藝術文化雑誌 紫明』第56号／2025.3／紫明の会

(4) 講演、講義等

佐藤一信

- ・講義「やきものから瀬戸・愛知・世界を見るー古地理・ものづくり・未来ー」／2024.10.24
／瀬戸西高等学校
- ・ポスターセッション「初代 諏訪 蘇山 研究が面白い！ー殖産興業・革新技術・美術工芸ー」
／東洋陶磁学会／2024.8.24／東京大学本郷キャンパス
- ・「やきものは楽しい 陶磁美術館へ行こう」／2024.10.23／愛知親和会
- ・「展覧会 江戸時代の本業と新製 瀬戸ーかく焼き繋ぎからみる瀬戸染付磁器と陶都・瀬戸の
発展」／シンポジウム『瀬戸染付の発展と展開』／2024.11.23／瀬戸市文化センター
- ・「ー明治期における蘇山の独自性と革新性ー」／京都陶磁器研究会シンポジウム／2025.2.20／
京都市産業技術研究所京都リサーチパーク
- ・「愛知県陶磁美術館から見つけるものづくりと自然」／国際芸術祭 2025 ラーニング・ラーニング
vol.04／2025.3.22／愛知県陶磁美術館

小川裕紀

- ・「博物館展示論」(講義全 15 回及び課題講評並びに成績評価)／2024.9.27－2025.2.14／中部大学

田畑 潤

- ・「青銅器研究 煎茶文化の中の青銅器と展覧会のはじまり」／茨城大学人文社会科学部オープン
キャンパス・プレ・企画「国際シンポジウム 歴史探求の最前線 中国の古代遺跡をてがかりに」
／2024.7.21／水戸市民会館
- ・「中国考古学、青銅器と煎茶文化から学ぶ 中国陶磁史」／売茶流愛知支部名古屋支部総会
／2024.7.27／浄元寺（名古屋市）

佐久間真子

- ・「陶製狛犬～身近な守護獣と江戸のやきもの基礎知識～」／葵美術グループ講座／2024.9.30
／名古屋市女性会館
- ・「犬山焼呉州赤絵再考ー鳥の図柄を中心とした比較研究ー」／青木修氏・井上あゆこ氏・宮川
菜々子・中野耕司氏・鈴木智恵氏との共同発表／令和6年度考古学フェア『あいちの考古学
2024』口頭発表（宮川菜々子）及びポスターセッション／2024.11.6－11.24
／名古屋都市センター11階まちづくり広場

入澤聖明

- ・「現代陶芸を展望するー学芸員の視点から」／2024.4.7／とこなめ陶の森資料館2階
- ・「国際芸術祭「あいち」の歩き方～瀬戸に国際芸術祭がやってくる！」／2024.9.20
／古民家レンタルスペース梅村商店
- ・「ザ・トライアングル「川田知志：築土構木」関連プログラム vol.2「公共空間と壁画」」
／2024.9.23／京都市京セラ美術館
- ・「国際芸術祭「あいち」地域展開事業「底に触れる 現代美術 in 瀬戸」の楽しみ方」／愛知県図
書館「リベラルアーツカフェ 2024」第3回／2024.10.18／愛知県図書館1階エントランス
Yotteko(ヨッテコ)

大西 遼

- ・古窯講座「香久山古窯から学ぶやきもののルーツ」／2024.4.21／日進市香久山古窯

- ・田原市博物館テーマ展「山茶碗」ってナンダ」プレイベント「山茶碗を選ぶ」／2024.5.18
／田原市ふるさと教育センター
- ・田原市博物館テーマ展「山茶碗」ってナンダ」トークショー「山茶碗の魅力を語る」／2024.6.1
／田原市博物館 企画展示室2・研修室
- ・「名古屋市千種区入船山古墳・城山4号墳出土須恵器について」／東海古墳時代研究会／
2024.6.15／愛知県陶磁美術館 会議室
- ・「尾張の陶器と斎王の生活」／古代遊学会 2024年古代史市民セミナー／2024.6.19
／東別院会館2階
- ・「平安貴族の愛した猿投窯の陶器—モノづくり王国愛知、初の全国制覇」／愛知県図書館「リベ
ラルアーツカフェ 2024」第1回／2024.7.21／愛知県図書館1階エントランス Yotteko(ヨッテコ)
- ・「やきもの王国の美術館—もっと知りたいやきもの魅力—モノづくり全国制覇リレー、猿投・
尾北・渥美・常滑・瀬戸」／県政お届け講座／2024.8.9／小牧市北里市民センター
- ・「モリコロパーク周辺の古窯と森林資源—猿投窯と瀬戸窯—」／長久手の森プロジェクト 15
／2024.8.11／愛知県児童総合センター
- ・「考古資料に対する3D技術の活用を探る—より正確に、より分かりやすく」／(本山伸彦氏と
の共同発表)／令和6年度考古学フェア「あいちの考古学 2024」／2024.11.6—11.24
／金山南ビル
- ・「須恵器を編む—猿投編年を中心に—」／博物館入門講座 第2回／2024.12.7
／鈴鹿市考古博物館 講堂

(5) 審査員・委員等

佐藤一信

- ・岐阜県現代陶芸美術館作品価格評価／2024.4.4—4.12／岐阜県現代陶芸美術館
- ・東京国立近代美術館美術作品評価／2024.11.11／国立工芸館
- ・瀬戸市史編さん委員会／2024.4.1—2025.3.31／瀬戸市
- ・瀬戸市史編さん委員会陶磁史編第八巻専門部会／2024.4.1—2025.3.31／瀬戸市
- ・豊田市民芸館運営協議会委員／2024.6.1—2025.3.31／豊田市民芸館

大槻倫子

- ・彦根城博物館協議会委員／2024.8.9、2025.2.14／彦根城博物館
- ・彦根城博物館評価員会／2025.1.21／彦根城博物館
- ・兵庫陶芸美術館収蔵品価格評価／2024.11.20／兵庫陶芸美術館
- ・滋賀県立陶芸の森陶芸作品等収集審査会委員／2024.12.26／滋賀県立陶芸の森
- ・第74回佐賀県美術展覧会 工芸部門審査員／2024.11.11／佐賀県立美術館
- ・宇治市文化財保護委員会委員

田畑 潤

- ・三重県桑名市文化財保護審議会委員／2024.10.21／桑名市役所

入澤聖明

- ・富山ガラス造形研究所前期講評会／2024.9.26、27／富山ガラス造形研究所

大西 遼

- ・奈良国立博物館買取等協議会委員／2024.9.19／奈良国立博物館

5 教育・普及

多様な魅力を有する陶磁文化について理解を深めるため、講演会や講座、ワークショップ等を開催した。また、学校教育や地域団体との連携事業に取り組んだ。

(1) 学校連携事業

① 学校団体受け入れ（月別受け入れ状況）

11月：13校、12月：9校、1月：8校、2月：8校、3月：2校 …のべ40校

※小学校26校 中学校1校 高校3校 大学1校 幼稚園・保育園7校 その他1校

② 「愛陶スクールプログラム」

展示鑑賞・学芸員による解説と作陶体験を組み合わせた学校団体向け特別プログラム。小中学校の図工、美術、社会の授業や地域学習などに対応した特別プログラム「知って楽しい×つくって楽しい6つのコース」を用意し、学校団体利用の増加を促した。

専用の申込用紙を制作し、WEBページよりダウンロード可能とし、E-mailもしくはFAXにて受付を行っている。令和6年度は展示施設である本館が工事休館中であったため、陶芸館で画像を使用し解説を行った。

②-1 「願いを込めて狛犬作り」

瀬戸・美濃では昔からやきものの狛犬をつくり、願いを込めて神社などに奉納してきた。この地域の特徴的な陶製狛犬について知り、観察した後でそれぞれの願いを込めて制作する。

利用校数 4校

②-2 「染付体験～青い絵を描こう～」

瀬戸の伝統的な絵付けの技法である染付の、青一色で描かれた絵付けの技と美しさを、作品鑑賞を通して学ぶ。呉須（絵の具）を使い、伝統文様や自由に好きなデザインを描き、普段使う絵の具とは違うやきものの絵付けを体験する。

利用校数 5校

②-3 「押しつけ！はみ出せ！落書き印花皿」

やきものを彩る様々な技法の中から、瀬戸の伝統的な技法である印花について学び、制作する。粘土の板にスタンプを押したり、線を描いたりしながら思うように落書きを楽しみ、その一部を切り抜いてお皿を作る。

利用校数 4校

②-4 「My 埴輪を作ろう！」

古墳時代（3世紀～6世紀）の埴輪や同時代につくられたやきものを観賞し、埴輪の造形の面白さだけでなく意味や使い方、作り方を学ぶ。

利用校数 0校

②-5 「One！わん！碗！」

古代から現代までの様々な食の器を鑑賞し、多くの山茶碗を生産した猿投窯の窯跡（窯の記憶 I・II）を見学したあと、自分が使うオンリーワンの「碗」を作る。自分で作ったうつわを使い、食べる楽しさや喜びを感じてもらう。

利用校数 15校

②-6 「粘土で描く？立体似顔絵」

土の表情を活かして制作された現代陶芸の作品を鑑賞して造形の楽しさを学ぶ。家族や好きなアイドルなど自分にとって大切な人を写真やスケッチから似顔絵を描くように彫刻し制作する。

利用校数 0校

③ 愛知県立瀬戸つばき特別支援学校との連携

愛知県立瀬戸つばき特別支援学校・高等部の卒業制作として陶壁制作を行った。小学部の生徒を招待し、今年度より開始した愛陶スクールプログラム「One! わん! 碗!」「願いを込めて狛犬作り」「押し付け! はみ出せ! 落書き印花皿」の運用試験を行った。

③-1 「卒業制作」

日 時 7月8日(月) 10:00—12:00

会 場 瀬戸つばき特別支援学校

参加者数 45人

③-2 「愛陶スクールプログラム プレオープン」

日 時 ① 10月30日(水)、② 10月31日(木) 9:30—11:30

会 場 つくるとこ! 陶芸館

参加者数 ① 54人、② 43人

(2) 地域の大学との連携

① 大学講義 (愛知県立芸術大学)

愛知県立芸術大学の美術・教育普及教育に協力するため、大学の講義を行った。

講義内容 神奈川県立平塚盲学校の生徒への制作体験と作品鑑賞の実践

講 師 陶芸指導員 岩淵 寛

担当科目 愛知県立芸術大学修士特別研究「インクルーシブアートB」

日 時 10月11日(金)

会 場 愛知県陶磁美術館 陶芸館 第2実習室

履修登録者 大学院1年生3名

神奈川県立平塚盲学校 高等部 2年生 3名 (男子1名・女子2名)

(引率の教員5名)

内 容 やきものに触れ、土に触れ、好みの土で作陶体験

千葉県立盲学校で制作された作品の鑑賞並びに、愛知県立芸術大学大学院生の実習

担 当 岩本絵理子氏、星野暁穂氏 (神奈川県立平塚盲学校 高等部)

佐藤文子氏 (愛知県立芸術大学 陶磁専攻准教授)

館長 佐藤一信、非常勤 高阪実由

② パートナーシップ

大学生等が陶磁文化に親しみ、当館が行う事業への理解を深めてもらうことを目的とした制度。参加大学等の学生や教職員が、当館の展覧会を自由に観覧することができ、また当館を利用した研究活動等を実施することができる。大学等は観覧料を後払いで負担する。

参加校 (2025年3月31日現在)

愛知医科大学、愛知学院大学、愛知教育大学、愛知県立芸術大学、愛知県立大学、
愛知工業大学、金城学院大学、中京大学、中部大学、東海学園大学、名古屋外国語大学、
名古屋学院大学、名古屋学芸大学、名古屋経営短期大学、名古屋工業大学、名古屋産業大学、
名古屋造形大学、名古屋大学、名城大学、愛知高等学校、名城大学附属高等学校
(計19大学、2高等学校)

(3) 館内実施講座

国際芸術祭「あいち 2025」のラーニング・プログラム ラーニング・ラーニング Vol.4

テ ー マ 愛知県陶磁美術館から見つけるものづくりと自然
日 時 2025年3月22日(土) 13:30-16:30
会 場 本館1階 レストラン
講 師 館長 佐藤一信
参加者数 40人

(4) 館外実施講座・講義

① 県政お届け講座「やきもの王国の美術館～もっと知りたいやきものの魅力～」

テ ー マ モノづくり全国制覇リレー、猿投・尾北・渥美・常滑・瀬戸
日 時 8月9日(金) 10:30-12:00
会 場 小牧市北里市民センター
講 師 学芸員 大西 遼
参加者数 18人

② 学校出前講座 やきもの体験授業

学芸員が学校へ出向き、触れるやきものキットを使った授業を行った。令和6年度は、スクールプログラムと連動した内容となっている。

講座名	実施日	実施校	参加人数
One! わん! 碗!	11月20日(水)	愛西市立市江小学校 第4学年2学級	42人
染付体験～青い絵を描こう～	11月29日(金)	瀬戸市立長根小学校 第3学年3学級	75人
押しつけ! はみ出せ! 落書き印花皿	2025年 1月15日(水)	長久手市立西小学校 第4学年4学級	92人
染付体験～青い絵を描こう～	2025年 2月12日(水)	長久手市立南小学校 第4学年4学級	117人

③ 愛知県児童総合センター連携実施プログラム

子どもと大人が児童館と美術館を自在に行き来し、アートを通じてともにのびのびと育つことを目的とした連携プログラムを実施した。

③-1 あなをほる

日 時 6月1日(土)、2日(日) (2日は雨天のため中止)
会 場 愛知県児童総合センター・愛知県陶磁美術館
講 師 館長 佐藤一信、学芸員 鮫島由佳
参加人数 6人



あなをほる

③-2 土をやく

日 時 ①10月20日(日)、②11月17日(日)、③23日(土)
会 場 愛知県児童総合センター
講 師 館長 佐藤一信、学芸員 鮫島由佳
参加人数 ①12人、②15人、③15人



土をやく

④ 長久手公共施設協力会連携企画

「長久手の森プロジェクト 15」

テ ー マ モリコロパーク周辺の古窯と森林資源—猿投窯と瀬戸窯
日 時 8月11日(日)
会 場 愛知県児童総合センター
講 師 学芸員 大西 遼
参加人数 18人

⑤ 県行政機関連携 あいち海上の森センターとの連携企画

「海上の森アカデミー里山暮らしコース」

⑤-1 土器づくり

日 時 12月7日(土)
会 場 海上の森センター
講 師 館長 佐藤一信
参加者数 9人

⑤-2 野焼き

日 時 2025年1月11日(土)、12日(日)
会 場 海上の森センター
講 師 学芸員 鮫島由佳
参加者数 12人



野焼き 窯起こし

⑥ 愛知県図書館との連携講座「リベラルアーツカフェ 2024」

⑥-1 第1回「平安貴族の愛した猿投窯の陶器—モノづくり王国愛知、初の全国制覇」

日 時 7月21日(日) 14:00-15:00
会 場 愛知県図書館 1階エントランス Yotteko (ヨッテコ)
講 師 学芸員 大西 遼
参加者数 34人

⑥-2 第3回「国際芸術祭『あいち』地域展開事業『底に触れる 現代美術 in 瀬戸』の楽しみ方」

日 時 10月18日(金) 18:30-19:30
会 場 愛知県図書館 1階エントランス Yotteko (ヨッテコ)
講 師 国際芸術祭「あいち 2025」キュレーター 入澤聖明
参加者数 47人

(5) ボランティア

敷地内の除草、花木の施肥作業を行うため「愛知県陶磁美術館ボランティア」を設置している。

(2025年3月31日現在、登録者数22人)

活 動 日 4月、6月、9月、10月、11月、1月、2月、3月 月曜日午前

活動場所 茶畑「愛陶茶園」など

6 陶芸館

(1) 休館中の取組

① アーティスト in 出張陶芸館 加藤真美ーデモンストレーション&アーティスト・トークー

「アーティスト in 出張陶芸館」は、瀬戸・常滑や東海地方で活躍する陶芸家や現代美術家等を講師に招聘し、参加者との交流を深めながら楽しくやきものづくりの体験、講師の持つ特別な技術を体感することを目的として実施した。

講師の加藤真美氏は、「器」に内在する空間の視覚化を意識した作品を制作している東海市で制作を行い、常滑市を拠点に活動している作家である。成形時に生じる磁器土ならではの表情と、釉薬が相まったテクスチャーを効果的に配することで、視線を「器」の内側へと誘う。

今回の講座では公開制作を行った。どのように作品が作られているのかを見ることが出来る貴重な機会となった。また、海外での活動、現在の作品制作に至るまでの経緯などをお話いただいた。

日 時	8月4日(日) 13:30-15:30
会 場	瀬戸市新世紀工芸館 工房棟3階「体験工房」
講 師	加藤真美氏 (東海市・常滑市)
担 当	学芸員 入澤聖明、陶芸指導員 岩渕 寛
参 加 料	無料
参加者数	27人



加藤真美ーデモンストレーション&アーティスト・トークー

② 出張陶芸館

休館中の「やきもの文化の普及」と「陶芸館の周知」のために「出張陶芸館」と題した作陶体験やワークショップを瀬戸市、長久手市、豊明市の文化施設に赴き開催した。

②-1 作陶体験 in 新世紀工芸館

「瀬戸市新世紀工芸館」で開催している「作陶体験」を、両館の共催事業として開催した。「恐竜をつくろう」や「パレススタイル土器」といった人気の高い講座や、やきものの装飾技法を楽しく体験できる「転写シールでコラージュ」など、幅広い内容の講座を展開した。

会 場	瀬戸市新世紀工芸館
定 員	各回 10人 (10:00-12:00、14:00-16:00)
参 加 料	1,670円
担 当	陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 近藤ひとみ、非常勤 東 直生、 非常勤 清水美香子、非常勤 高阪実由、非常勤 青井すみれ、 非常勤 加藤万里奈

テーマ	実施日	参加者数
恐竜をつくろう	4月28日(日)	26人
貯金箱をつくろう	5月26日(日)	19人
転写シールでコラージュ	6月23日(日)	16人
こま猫をつくろう	7月28日(日)	20人
パレススタイル土器をつくろう!	8月25日(日)	26人

②-2 瀬戸染付工芸館×愛知県陶磁美術館「瀬戸染付体験教室」

「瀬戸染付工芸館」にて開催している「絵付け体験」に陶芸指導員を講師として派遣した。各回、異なった器形がテーマなため、「かたち」を意識しながら瀬戸の伝統技法のひとつである「染付」を体験することができ、その面白さや奥深さを実感できる講座となった。

会 場 瀬戸染付工芸館
 定 員 各回 8 人 (10:00-、14:00-、各回 2 時間程度)
 参加料 1,100~1,320 円
 担 当 非常勤 近藤ひとみ、非常勤 青井すみれ

テーマ	実施日	参加者数
扁壺	4月27日(土)	13人
タルト皿	6月22日(土)	28人
花形皿	8月24日(土)	17人

②-3 おでかけ陶芸館 in 長久手市文化の家

長久手市と連携し、当館陶芸指導員が「長久手市文化の家」に赴き、「土」などをテーマにしたワークショップを行った。「焼かない」体験を考案し、再開館後の陶芸館の活動や、焼成設備がない環境での出張講座への対応のために実験的な意味合いも含め開催した。

会 場 長久手市文化の家
 参加料 無料
 担 当 非常勤 中島聡子、非常勤 高阪実由、非常勤 青井すみれ

テーマ	実施日	参加者数
地層をつくろう	4月13日(土)	8人
土で描く!	5月5日(日・祝)	17人
泥染めにチャレンジ	6月2日(日)	24人
陶片で作るモザイクアート	7月14日(日)	11人
粘土を作って遊ぼう	8月11日(日・祝)	20人

②-4 出張!陶芸館 in とよあけ~あなたのまちに陶芸館がおじゃまします~

豊明市生涯学習課との共催事業として、当館陶芸指導員が豊明市「大蔵池公園 陶芸の館」を会場に、様々な内容の作陶体験を行った。「恐竜をつくろう」などの陶芸館でも人気の高い講座から、マグカップやアロマポットなど使えるうつわを作る作陶体験も開催した。

会 場 豊明市陶芸の館 (豊明市大蔵池公園内)
 定 員 20 人
 参加料 1,500 円
 担 当 陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 中島聡子、非常勤 近藤ひとみ、
 非常勤 東 直生、非常勤 清水美香子、非常勤 高阪実由

テーマ	実施日	参加者数
マグカップとお皿	4月21日(日)	20人
癒しのアロマポット	5月19日(日)	18人
埴輪を作ろう	6月16日(日)	20人
恐竜をつくろう	7月21日(日)	25人
こまネッコ!	8月18日(日)	30人

(2) リニューアルオープン

利用可能になる施設から段階的に利用を再開した。その第1弾として、陶芸館と周辺施設「作るゾーン」を11月1日(金)にリニューアルオープンした。再開にあたり、施設の特徴を利用者に分かりやすく伝えるため、陶芸館を「つくるところ!陶芸館」、古窯館を「窯の記憶I・II」、そして、復元古窯周辺を「窯焚き広場」と新たに愛称を付けた。また、リニューアルオープン記念イベントを開催した。

① 愛称について

名称	愛称	対象施設
陶芸館	つくるところ!陶芸館	—
古窯館(南山8号窯)	窯の記憶I	—
古窯館(南山9号窯)	窯の記憶II	—
復元古窯周辺	窯焚き広場	大窯・連房式登り窯・市道1号窯

② つくるところ!陶芸館 リニューアルオープン記念イベント

②-1 「愛陶窯巡り」

敷地内の各窯を巡り、特徴や構造、作られたやきものの解説を学芸員が行った。また、敷地内で採取した土で、簡単なやきものづくりを体験した。復元古窯の焼成後に残った「灰」でつくった釉薬をかけて焼成し、後日参加者に記念品として渡した。

日時 11月3日(日・祝) 13:30-16:00

会場 つくるところ!陶芸館、窯の記憶I・II、
窯焚き広場

参加料 一般:300円 中学生以下:150円

参加者数 15人



やきものづくり

②-2 「願いを込めて狛犬作り」

学校学習のために考案した愛陶スクールプログラムを一般の方に向けて特別に開催した。学芸員がスライドなどを使い、各プログラムに沿ってやきものの魅力を伝えた。

日時 ①11月3日(日・祝)、②11月30日(土)

会場 つくるところ!陶芸館 第2実習室

参加料 一般:1,000円 中学生以下:850円

参加者数 ①20人、②44人

②-3 「押しつけ!はみ出せ!落書き印花皿」

日時 ①11月4日(月・振替休日)、②11月30日(土)

会場 つくるところ!陶芸館 第2実習室

参加料 一般:1,000円 中学生以下:850円

参加者数 ①28人、②29人

②-4 「あいち・土のビュッフェ」

敷地内で採取した土など、数種類の「あいちの土」をビュッフェ形式で配置し、土の色や質感を、簡単であるが本格的に体験できるスペースを特別に設置した。好みの土を選んで絵を描く、瓶の中にいろいろな土を重ね入れて地層をつくる、泥状にした土で布を染めるなど、土そのものに触れる体験プログラムを開催した。

日 時	11月3日(日・祝)、4日(月・振替休日)
	9:30-16:30 (所要時間: 最長2時間)
会 場	つくるとこ!陶芸館 第2実習室
参加料	一般:300円 中学生以下:150円
参加者数	185人



あいち・土のビュッフェ

②-5 アーティスト in 陶芸館

瀬戸・常滑や東海地方で活躍する陶芸家や現代美術家等を講師に招聘し、参加者との交流を深めながら楽しくやきものづくりの体験、講師の持つ特別な技術を体感することを目的としている。参加者と講師がコミュニケーションをとりながら、その時間の中でしか生まれない魅力的な体験を行った。

②-5-(1) アーティスト in 陶芸館「竹内真吾」

講師の竹内真吾氏は瀬戸市を代表する陶芸家の一人で、須恵器の様な質感をもつ「装飾と形態」が呼応する作品を制作している。「紐作り」の技法で公開制作を行い、実際に作品が作られていく過程を見せた。また、海外での活動や滞在制作での出来事、現在の作品制作に至るまでの経緯を話した。

日 時	11月24日(日) 11:00-16:00
会 場	つくるとこ!陶芸館 第2実習室
講 師	竹内真吾氏(瀬戸市)
参加料	一般:600円 中学生以下:300円
参加者数	14人



Shingo Takeuchi
瀬戸市立陶芸館
アーティスト in 陶芸館
愛知県立芸術大学
瀬戸市立陶芸館
アーティスト in 陶芸館

竹内真吾・宮下陽

②-5-(2) アーティスト in 陶芸館「宮下陽」

講師の宮下陽氏は、白い素地に青色の絵を描く「染付」の作家で、「筆」だけではない、独自の描画方法で絵付けの体験(直径17cm程度の素焼きの皿に絵付け)を行った。愛知県立芸術大学での研究の成果や、現在の作品制作に至るまでの経緯なども話した。

日 時	12月22日(日) 11:00-16:00
会 場	つくるとこ!陶芸館 第2実習室
講 師	宮下陽氏(愛知郡東郷町)
参加料	一般:1,000円 中学生以下:850円
参加者数	24人



A4 チラシ

②-6 こどもワークショップ 安宮せい子「ねんどであそぼう！」

臨床美術士の^{やすみや}安宮せい子氏を講師にまねき、ねんどを使った2つの体験を行った。内容①「ねんどのデコボコであそぼう」は、1～3歳の子どもを対象に、ねんどの感触遊びを楽しみ飾れる版面を制作。内容②「惑星をつくろう」は、4～6歳の子どもを対象に、色ねんどに飾りをつけて惑星を制作した。

日 時 11月8日(金)、9日(土) 10:00-11:30
会 場 つくるとこ!陶芸館 第2実習室
講 師 安宮せい子氏(臨床美術士)
参加料 こども:650円 保護者:300円
参加者数 35人



ねんどのデコボコであそぼう

②-7 「little flower coffee」が「つくるとこ!陶芸館」にやってくる!!

瀬戸の「little flower coffee」がケータリング方式で飲食物の販売を行った。

日 時 11月3日(日・祝)、4日(月・振替休日) 10:30-15:30
会 場 つくるとこ!陶芸館 正面玄関前ピロティ

②-8 「つくるとこ!陶芸館」オープン記念「やきものブローチ」プレゼント

「つくるとこ陶芸館」スタッフが作成した「やきものブローチ」を、作陶体験・イベント予約者にプレゼントした。

対象日 11月3日(日・祝)、4日(月・振替休日)、
22日(金)から24日(日)(あいちウィークの週末)



やきものブローチ

(3) 通年事業

陶芸指導員の指導により、利用者が希望に応じて自由に作陶体験できる陶芸実習や、陶芸館の自主事業として陶芸教室や各種ワークショップなどを実施した。

なお、利用者が制作(成形・絵付)した作品の乾燥・素焼・施釉・本焼は陶芸指導員(本項では、非常勤職員を含む)が当館内の窯炉などを用いて行った。

① 陶芸実習

○実習内容

作陶:利用者の希望と経験により、自由に制作(成形)を行う。(作品の大きさ制限あり)
絵付:予め制作された素焼きの皿・湯呑に絵付を行う。

○説明及び指導

作陶の初心者を対象とした説明会を9:30から14:30までの毎時0分・30分に開催した。
また、陶芸指導員が実習室に常時在室し、利用者の要望に応じて指導を行った。

○利用者定員

作陶(電動ロクロを除く) ・絵付:164人、電動ロクロ:18人

○利用時間

9:30 から 16:30 まで（受付開始 9:15、初心者向け最終説明会 14:30）

○インターネットでの事前予約

オンライン予約（1～19人までの利用） STORES 株式会社 STORES 予約を利用。

9:30～11:30、11:30～13:30、13:30～15:30 各回 30人。

（STORES 予約へは陶磁美術館 WEB ページから移動可。）

〈予約方法〉各予約申込書を WEB ページからダウンロードし、メールか FAX で送付。

予約の可否を当館から返信。

団体予約（20人以上） 団体予約申込書

学校団体 学校団体向け特別プログラム用申込用紙

その他団体 一般団体用申込書

○利用料金（2025年3月31日現在）

区 分	内 容	料 金	
		一般	中学生以下
実習室 使用料	2時間まで	300円 (240円)	150円 (120円)
	4時間まで	600円 (480円)	300円 (240円)
	7時間まで	900円 (720円)	450円 (360円)
焼成料	作陶（粘土 1kg 毎）	300円	
	絵付（1個毎）	300円	

*（ ）内は 20名以上の団体料金。

*粘土や絵付素材などについては、陶芸館内の売店で別途販売。

② はじめての陶芸館

2020年度から開始した、陶芸館の利用促進のための事業。はじめて陶芸館を利用する方に向けてやきもの作りの入り口となるような講座。やきものを全く作ったことがない方でも、手軽に制作できる簡単な作り方で「使える器」や「陶人形」を制作する陶芸体験を開催した。

テーマ	実施日	参加人数
干支をつくろう「巳」	11月17日(日)	40人
「フードボウル」	12月15日(日)	34人
やきもので作る「ひな人形」	2025年1月19日(日)	53人
「五月人形 兜」	2025年2月16日(日)	25人
「恐竜をつくろう」	2025年3月16日(日)	57人



A4 チラシ

③ 第39回 陶芸教室

今年度で39回目を迎える陶芸教室は、1986年の陶芸館の開館以来、継続開催している。やきもの作りの技術を様々な角度から習得できるよう多様なコースを設け、当館の陶芸指導員が基礎から丁寧に指導し、陶磁文化の普及を担っている。少人数制の形式をとることにより、担当指導員が、参加者の個々のレベルに即した対応をした。

③-1 練り込みコース

違う色の土を組み合わせて文様を作る練りこみ技法を習得するコース。組亀甲文を行った。

開講日 ①1月9日(木)、②1月16日(木)、③1月23日(木)、④1月30日(木)、
⑤2月6日(木)、⑥2月13日(木)、⑦2月20日(木)

担当 非常勤 近藤ひとみ

参加人数 ①28人、②28人、③28人、④28人、⑤28人、⑥28人、⑦28人

受講料 一般 4,200円 中学生以下 3,150円(※顔料代が別途必要)

③-2 白化粧掻き落としコース

色粘土で形をつくり、白化粧土を塗って文様を掻き落とす技法を習得するコース。

直径15cm前後の陶箱を作成した。

開講日 ①2月27日(木)、②3月6日(木)、③3月13日(木)、
④3月20日(木・祝)、⑤3月27日(木)

担当 非常勤 清水美香子

参加人数 ①24人、②24人、③24人、④24人、⑤24人、

受講料 一般 2,900円 中学生以下 2,150円(※顔料代が別途必要)

④ デザインあいちパイロット事業

暮らしにやきものを講座「花をたのしむ器×花と器の写真教室」

館の新しい教育普及企画として、写真家、学芸員、陶芸指導員の共同イベント。身近なやきものを見つめなおし、再発見することをテーマ、「花をたのしむ器(花器)」を制作し、完成した器に当館の敷地内にある自然の草木花をいけ、さらに、講師の中野耕司氏による写真教室を開催した。

日時 ①2025年1月15日(水) 10:00-12:00、
②2月13日(木) 10:00-14:00

会場 ①つくとこ!陶芸館 第2実習室、②館内敷地、茶室

講師 中野耕司氏(写真家)

担当 学芸員 宮川菜々子、学芸員 鮫島由佳、非常勤 加藤万里奈

参加料 ①一般:1,700円 中学生以下:1,550円、②300円

参加者数 ①15人、②14人

⑤ 愛陶の染付体験

⑤-1 「和紙染」

やきもの下絵付けの装飾技法の一つ「和紙染」。和紙(今回は不織布を使用)を文様の形に切って素焼きの素地にのせ、その上から筆で絵の具を染み込ませる。乾いた後に和紙を剥がすと質感を感じる文様が現れる。15cmサイズのお皿を使用し、「和紙染」に挑戦した。

日時 2025年1月25日(土) 10:00-12:00

参加料 一般 1,000円 中学生以下 850円

参加者数 19人

⑤-2 「吹き墨」

やきものの下絵付けの装飾技法の一つ「吹き墨」。霧吹きで絵具を吹きつけ、濃さや強さを変えることで多様な色面を表現します。マスキングと組み合わせ、浮かび上がる形の中に筆で文様を描くなど、奥行きのある絵付けを楽しむ。15 cmの皿を使用し、「吹き墨」に挑戦した。

日 時 2025年3月22日(土) 10:00-12:00

参加料 一般 1,000円 中学生以下 850円

参加者数 24人

(4) 地域連携

① 2024年度 長久手市文化の家 アートスクール講座

土からつくる陶芸講座「やきものから長久手を知る～知る・見る・作る、そして使う～」

長久手市文化の家、愛知県立芸術大学と連携し、「器の話」から始まり、瀬戸の原土から器を制作し、食事会で使うまでを行う、連携企画でなければできない特別な講座を開催した。

テーマ 第1回 「器」のはなし

会場 長久手市文化の家

実施日 5月25日(土)

参加者数 14人

内容 器について当館学芸員の宮川奈々子が所蔵品を中心にスライドレクチャーを行った。

テーマ 第2回 瀬戸の土に触れる

会場 愛知県立芸術大学

実施日 6月22日(土)

参加者数 15人

内容 瀬戸地域の代表的な粘土、蛙目粘土・木節粘土の原土、当館敷地内で採取した土を簡易に製土した。さらに、大学内に保存されている「三ヶ峯1・2号窯」を当館学芸員の大西遼が出土した山茶碗とともに解説した。

テーマ 第3回 鬼板 絵具を作る

会場 長久手市文化の家

実施日 7月27日(土)

参加者数 15人

内容 天然の「鬼板」-おにいた- (鉄を多く含む岩石) を粉碎し絵の具を制作した。

テーマ 第4回 型を作る①

会場 長久手市文化の家

実施日 8月24日(土)

参加者数 15人

内容 器を作るために使用する「土型」の解説と制作(制作方法の実演を含む)を行った。

テーマ 第5回 型を作る②

会場 長久手市文化の家

実施日 9月28日(土)

参加者数 14人

内容 第4回に引き続き、器を作るために使用する「土型」の制作を行った。

テ ー マ	第 6 回 器を作る①
会 場	長久手市文化の家
実 施 日	10 月 26 日(土)
参加者数	12 人
内 容	参加者が自ら制作した「土型」を使用し、器の制作を行った。
テ ー マ	第 7 回 器を作る②
会 場	長久手市文化の家
実 施 日	11 月 23 日(土・祝)
参加者数	11 人
内 容	第 5 回に引き続き、参加者が自ら制作した「土型」を使用し、器の制作を行った。
テ ー マ	第 8 回 釉薬を作る
会 場	つくるとこ！陶芸館
実 施 日	12 月 21 日(土)
参加者数	13 人
内 容	長石と愛知芸大の雑木の灰、陶磁美術館の復元古窯焼成時に残った灰、天然の櫛灰それぞれを 10 段階で混ぜ合わせテストピースを制作した。下絵付けには講座内で粉碎した「鬼板」を使用した。
テ ー マ	第 9 回 施釉・窯入れ
会 場	つくるとこ！陶芸館
実 施 日	2025 年 1 月 26 日(日)
参加者数	14 人
内 容	第 8 回で制作した 10 段階のテストピースを観察し、好みで釉薬をここに調合し、参加者が制作した器に施釉を行った。その後、ガス窯への窯入れも体験した。
テ ー マ	第 10 回 器を「使う」
会 場	御うどん 光史
実 施 日	2025 年 2 月 15 日(土)
参加者数	14 人
内 容	長久手市の「御うどん 光史」にて、完成した器を使用した食事会を行った。
時 間	各回 13:30～15:30 (最終回は 14:30～16:00)
担 当	小川真由氏 (長久手市文化の家 長久手市暮らし文化部 生涯学習課) 佐藤文子氏 (愛知県立芸術大学 陶磁専攻准教授) 上田春陽氏 (愛知県立芸術大学 美術研究科陶磁領域 1 回生)
	学芸員 大西 遼、 学芸員 宮川菜々子、 陶芸指導員 岩渕 寛、 臨時職員 宮下 陽
参 加 料	18,000 円



令和6年度 長久手市文化の家 アートスクール講座

長久手市文化の家・愛知県立芸術大学・愛知県陶磁美術館 共同企画

土からつくる陶芸講座 「やきものから長久手を知る -知る・見る・作る・そして、使う-

文化の家アートスクール講座とは、市民の文化創造活動のきっかけをつくるとともに、受講者同士の交流を促進し、文化でつながるコミュニティづくりを目的とする市民講座です。5月末から3月頃まで開講予定です。

受講生募集

② SAN MA 親子で楽しむマーケット「砂で絵をかこう」

「SAN MA」は瀬戸市中心市街地商店街の若手有志が中心となって企画したマーケット。「珪砂」を使用した制作体験を行った。画用紙に絵具で絵を描き、乾かないうちに「珪砂」をふりかけ定着させキラキラ光る「砂絵」を完成させた。

日 時 7月7日(日) 11:00—18:00
会 場 青の広場(瀬戸市)
担 当 非常勤 中島聡子、非常勤 清水美香子、非常勤 高阪実由、
非常勤 青井すみれ、非常勤 加藤万里奈
参 加 料 無料
参加者数 160人

③ ソーシャルタワーマーケット「瀬戸の土でおえかき」

国際芸術祭「あいち2025」のラーニングチームと協力して、瀬戸の土の「色」の美しさ感じながら、落書き感覚でお絵描きを楽しんだ。通りがかりの人々が、様々な色の土でドローイングを重ね、大きな絵を描いた。

日 時 11月9日(土)、10日(日) 10:00—17:00
会 場 オアシス21(名古屋市)
担 当 陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 青井すみれ
参 加 料 無料
参加者数 約200人



瀬戸の土でおえかき

④ 長久手の森 プロジェクト(陶芸体験・植樹)

つくるとこ!陶芸館にて植木鉢制作の陶芸体験を行った。また、デザインあいち横の敷地にフモトミズナラなどを植樹した。

日 時 11月10日(日) 10:00—15:00
会 場 つくるとこ!陶芸館、敷地内
担 当 長久手公共施設協力会(NPO)、館長 佐藤一信、
学芸員 宮川菜々子、学芸員 鮫島由佳
参 加 料 1,000円
参加者数 64人



植樹風景

⑤ あいち埋文サポーターズクラブ関連イベント「パレススタイル土器を作ろう」

弥生土器の中でも異彩を放つ「パレススタイル土器」の制作体験を行った。瀬戸の土、瀬戸の川砂で胎土を作り、天然の弁柄で彩色を行った。完成した土器は2日目に「野焼き」にて焼成した。

日 時 ①11月27日(水) 9:30—16:30、②2025年1月27日(月) 9:30—15:00
会 場 つくるとこ!陶芸館
担 当 蔭山誠一氏(愛知県埋蔵文化財センター 調査課 調査研究専門員)
陶芸指導員 岩渕 寛
参 加 料 600円
参加者数 ①13人 ②13人

⑥ 2024年度 愛知県緑化センター みどりづくり研修「盆栽鉢を楽しむ」

1回目は、つくるとこ！陶芸館にて「盆栽鉢」制作の制作体験を行った。2回目は、制作した「盆栽鉢」に、盆栽作家の三浦 克友氏の指導の下、植え込みを行った。

日 時 ①2025年1月25日(土) 13:00-15:00、②2月22日(土) 13:00-15:00
会 場 ①つくるとこ！陶芸館、②愛知県緑化センター 実習室
講 師 三浦克友氏 (moss green ikkei)
担 当 田畑やよい氏 (公益財団法人愛知県公園協会 愛知県緑化センター主査)
陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 加藤万里奈
参 加 料 一般 2,220円 中学生以下 2,160円
参加者数 ①29人、②28人

⑦ 体感！しだみ古墳群ミュージアムとの協同企画「お庭に埴輪プロジェクト」

第1回「土づくり」は当館にて採取した土を篩にかけるなどし、簡易に精土を行った。さらに、古墳時代のやきものについてのスライドレクチャー、窯の記憶I・IIの見学、解説も行った。第2回「埴輪の成形」は、体感！しだみ古墳群ミュージアムにおいて、精土した土を使用し、埴輪の制作を行った。第3回「色づけ」は当館で採取した土を使用し制作した埴輪に着色。完成した埴輪は、体感！しだみ古墳群ミュージアムにて焼成を行った。

日 時 ①2025年1月26日(日)、②2月2日(日)、③3月2日(日) 各回 10:00-15:00
会 場 ①つくるとこ！陶芸館、②・③体感！しだみ古墳群ミュージアム
担 当 服部哲也氏 (特定非営利活動法人古代瀬波の里・文化遺産ネットワーク副理事長)
学芸員 大西 遼、非常勤 清水美香子、非常勤 青井すみれ、
臨時職員 宮下 陽
参 加 料 3,000円
参加者数 ①31人、②31人、③20人

⑧ ジブリパーク連携事業「もののけの里 陶芸体験」

ジブリパーク・春のどんどこ祭りに合わせ、ドングリや木の枝などの自然物を押し付けて跡を残す「ネイチャースタンプ」を施したお皿などを制作した。さらに、会場の「タタラ場」からイメージする「鉄」を含んだ鉱物「鬼板」を主にした化粧土で彩色も行った。

日 時 2025年3月29日(土)、30日(日) 各日 10:30~12:00、13:30~15:00
会 場 ジブリパーク もののけの里内特設会場
担 当 大前憲司氏 (株式会社ジブリパーク管理本部 マーケティング部部长)
館長 佐藤一信、陶芸指導員 岩渕 寛、非常勤 高阪実由
参 加 料 1,000円
参加人数 60人

7 地域連携

(1) 愛知県内

① 瀬戸市及び瀬戸市内の団体との連携事業

瀬戸市新世紀工芸館と連携し、企画展を実施した（詳細は 60 頁を参照）。

② 瀬戸いけばな協会との連携

本館リニューアルオープン内覧会に合わせて、同協会の会員に生け込みを依頼し、展示室入口前に「お迎え花」を設置した。花器は、陶芸作家の加藤清之氏の作品を用いた。

担 当 伊藤枝光庵氏（華道拈華流）



(2) 広域

① 陶磁ネットワーク会議

公立の陶磁専門館がネットワークを組み、協働することを目的として 2008 年度に設立された。毎年 1 回、連絡会議を開催して情報交換等を行っている。2024 年度は監事館の茨城県陶芸美術館において「産地・作家と美術館」をテーマに開催された。

開 催 日 11 月 6 日（水）、11 月 7 日（木）

加 盟 館 愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、岐阜県現代陶芸美術館、
佐賀県立九州陶磁文化館、滋賀県立陶芸の森、兵庫陶芸美術館、
福井県陶芸館、山口県立萩美術館・浦上記念館

② 愛知県博物館協会

愛知県内に所在する博物館施設が、相互の連絡協力を密にし、事業の振興を図ることを目的として 1964 年に設立された。2024 年 4 月現在の加盟館は、計 118 館である。

2024 年度の会長館及び事務局は、名古屋市博物館。当館長は理事、当館は理事館として在籍、当館学芸員が実行委員会に参加し、職員等研修会・令和 6 年度東海三県博物館協会研究交流会の運営を担当した。協会全体では、理事会・総会、記念講演会、各種研修、HP 運営や印刷物（協会報『愛知の博物館』、『おでかけガイド』）の発行、非常連絡訓練等が行われた。

③ 東海三県博物館協会

愛知県博物館協会、岐阜県博物館協会、三重県博物館協会の加盟館が連携や交流することを目的とする。2024 年度は、研究交流会（愛知県博物館協会の職員等研修会と合同）に参加した。
<研究交流会>

2024 年度は「今！行う博物館の災害対策！－東日本大震災後の東北の取り組みから－」をテーマに、講師による講演、事例報告のほか、グループトークセッションで意見交換を行った。

開 催 日 2025 年 2 月 28 日（金）

会 場 愛知芸術文化センターのアートスペース A（オンライン併用）

④ その他の当館が加盟する博物館関連団体

全国美術館連絡協議会

東海地区博物館連絡協議会

8 現代陶芸魅力発信事業

2021年度から2025年度末まで実施する「現代陶芸魅力発信事業」は、当地の文化財である陶製狛犬や若手作家の現代陶芸作品展示を行い、それらを活用した教育普及活動を実施し、特に若年層にむけて広く陶磁作品の魅力を発信するものである。

若手作家紹介事業 02

愛知県陶磁美術館×瀬戸市新世紀工芸館共催事業企画展

「やきもの現代考—混融 Mixed Melting—」

若手作家紹介事業の第2回目(1回目は令和4年度に本館1階通路及び芝生広場にて開催)となる本展では、素材の混融という視点から、陶芸・ガラス・七宝の若手作家に焦点を当て、「やきもの」という言葉が含みうる表現の射程を再考した。

「やきもの」という言葉は陶磁製品を指すのが一般的であるが、窯業という観点で見れば「窯を用いて焼いたもの」という意味合いとなり、その範疇は陶磁にとどまらず、ガラスや七宝なども含まれる。陶磁・ガラス・七宝はいずれも素材に根ざす独自の表現領域として確立しているが、近年ではそれぞれの領域を横断する新たな表現も試みられている。陶磁・ガラス・七宝には、大まかに言えば原料の組成比の差異があり、各々特有の魅力を生み出している一方で、その差異が溶けて交わる中間領域も存在するからこそ、新たな表現として様々な可能性を秘めている。

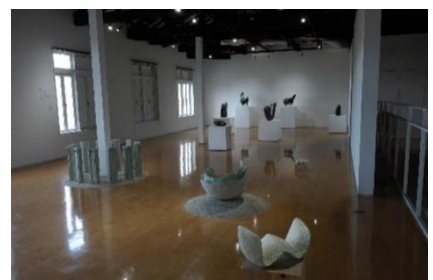
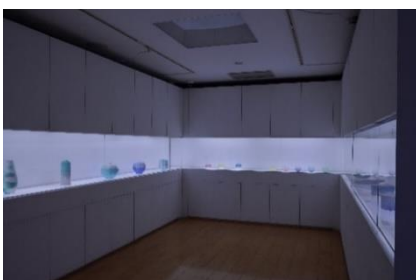


B2 ポスター

会 期	11月16日(土)–2025年1月13日(月・祝)
開館日数	44日
会 場	瀬戸市新世紀工芸館 展示棟
主 催	愛知県陶磁美術館、瀬戸市新世紀工芸館、(公財)瀬戸市文化振興財団
参加作家	池田貴普 (七宝)、津守秀憲 (ガラス)、波多野祐希 (陶芸) (敬称略)
観覧者数	949人
広報出版	ポスター (B2)、チラシ (A4)
担 当	主任学芸員 佐久間真子、学芸員 入澤聖明、瀬戸市新世紀工芸館 大西佑一氏

主要掲載記事

「若手焼き物作家3人が素材の「境界」で表現 瀬戸で企画展」(中日新聞 2025.1.10)



展示風景

9 魅力向上推進事業

当館は、2021年度から敷地の魅力向上のためにサインリニューアルを実施している。
2024年度は「つくるとこ！陶芸館」及び本館のリニューアルオープンに合わせて実施した。

- ・本館前、陶芸館前、リコモ側門脇のマップサインの更新



- ・窯の記憶Ⅰ・Ⅱへの誘導サイン、作品解説の新設



- ・車両誘導サイン 14 か所の更新



- ・歩行者誘導サイン 26 か所のうち 21 か所の更新、5 か所の撤去



- ・本館展示室、ラウンジ、観覧者誘導等の屋内サイン 11 か所の更新



10 広報活動

当館では、「愛知県陶磁美術館条例」で掲げられた陶磁文化の振興等の目的を達成するため、県内外の多くの人々に館の魅力を伝え、来館を呼び込むべく広報宣伝業務を行っている。リニューアルオープンに関連し、各メディア担当者向けにプレ・オープン（内覧会）を開催した。また、職員による公式 SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）アカウントの運営をはじめ、オンライン上での広報手法を取り入れるなど、各種取り組みを実施した。

（1）各メディア担当者向けプレ・オープン（内覧会）

①「つくるところ！陶芸館」メディア担当者向けプレ・オープン（内覧会）

リニューアルオープン前に、各メディア（記者・SNS インフルエンサー等）向けの内覧会を開催した。「愛陶窯巡り」「あいち土のビュッフェ」を実施し、当館が育んできたイベントの奥深さを紹介した。

日 時 10月22日（火）13：30～15：30
会 場 つくるところ！陶芸館とその周辺
参加者数 17人



愛陶窯巡り



あいち土のビュッフェ

②「本館リニューアルオープン」メディア向け内覧会

本館リニューアルオープン前に、メディア（記者・SNS インフルエンサー等）向けの内覧会を開催した。リニューアルした施設の紹介とともに、リニューアルオープン記念「新シュウ蔵品展－美術館シュウシュウのあれこれ」、愛陶コレクション展「世界はやきものでできている」を紹介した。

日 時 2025年3月30日（日）9：30～10：00
会 場 本館1階ロビー～各展示室
参加者数 21人



内覧会風景



(2) 陶磁美術館魅力発信事業：陶磁美術館公式 SNS の運営

「陶磁美術館 SNS アクションプラン」に基づき、陶磁美術館公式 SNS (X (旧 Twitter)・Instagram・Facebook・YouTube)の運営を行った。

① X (旧 Twitter) (2018 年度開始)

頻度：休館日を除く毎日 1 度投稿 (臨時投稿も可)。

担当：館職員 28 名、文化芸術課職員 1 名による交代制。

② Instagram (2018 年度開始)

頻度：3 日に 1 度投稿 (臨時投稿も可)

担当：職員 10 名による交代制。

③ Facebook (2012 年度開始) ※

Instagram と連動させて同時投稿を行う。

④ YouTube (2012 年度開始) ※

広報宣伝ツールとしてではなく、主に陶芸館事業における動画教材の公開ツールとして活用。

※開設当初は、2011 年度実施の広報委託事業「やきもの PR 隊」の公式 Facebook 及び YouTube として運用開始。その後活動終了に伴い当館公式へ移行。



愛陶チャンネル トップページ



愛陶スクールプログラム



(3) 広報印刷物の製作及び設置依頼

東海地域を中心に日本全国の美術館・博物館や、図書館等の文化施設、観光施設、イベントなどにポスター、チラシを送付し、設置依頼を行った。主要な広報先などを随時整理し、より効果的な発送計画を立てるなどの工夫を行っている。

(4) 公式 WEB ページの運営

愛知県陶磁美術館の施設案内、所蔵品紹介、展覧会、イベント情報などを掲載し、利用者に向けて、適時に情報提供を行った。また、陶芸館のリニューアルオープンに伴い STORES 株式会社（旧 Coubic by STORES）による陶芸体験予約を再開した。

(5) オンライン広告の利用

PRTIMES に本館リニューアルオープンの詳細を掲載した。

配信日：2025年3月5日(水)

(6) その他の有料広告

① ラジオサンキュー放送及び出演

- ・特別展、企画展、各種イベントの紹介（毎週水曜日1分枠）
- ・毎月第4木曜日の生放送出演

② 中日新聞「リニモ開業20周年記念企画広告」掲載

中日新聞社の「リニモ開業20周年記念企画広告」に沿線施設のひとつとして紹介されるとともに、本館リニューアルオープンと「新シュウ蔵品展」の広報を実施した。

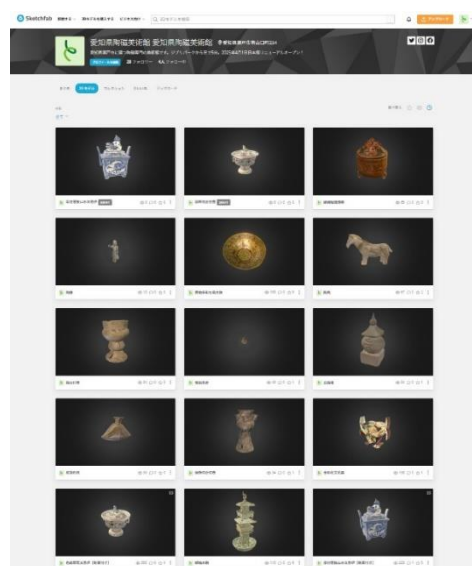
掲載日：2025年3月7日(金)

(7) 休館中の取組 AICHI X TECH

(アイチクロステック) 事業

愛知県と企業等との連携で、県庁内の各所属が抱える行政課題について ICT を活用して、その解決を目指す事業「AICHI X TECH」に参加した。長期休館中にも既存ファンを楽しませたり新規ファンを獲得したりするための施策として、展示を行っていない休館中にしか作成できない収蔵品の 3D モデルを作成し、さらにその 3D モデルを活用した動画によって SNS による広報を行うため、事業者を募集した。

有限会社 B ダッシュによる収蔵品の 3D モデルを 13 件作成し、それらを用いた動画 10 件を作成し、展示・広報等で活用する。



プラットフォーム Sketch Fab での発信

11 事業活性化の取組

(1) 陶磁美術館の活性化計画(2024年度—2026年度)

2018年度、2019年度と「陶磁美術館の活性化」が「しなやか県庁創造プログラム推進プロジェクトチーム」における重点項目となった。

そこで検討した「SNSを活用した効果的な情報発信」「陶芸館の利用促進」「展示事業の充実」の3つの取組を主な柱として、これを具体化し、施設の活性化に取り組むため、「行動目標」と「数値目標」からなる計画(計画期間:2021年度~2023年度)を2020年度に策定した。この期間が満了することから、行動目標や数値目標等に必要な見直しを加えた上で、第二期計画(計画期間:2024年度~2026年度)を策定した。

(2) 2024年度の「取組」及び「行動目標」

① 取組1 SNSを活用した効果的な情報発信

行動目標1 魅力発信検討会議の実施

- ・魅力発信検討会議において専門家から提案されたアクションプランに基づき、陶磁美術館全体の魅力をSNSツールの特性に応じた内容で効果的に発信(2020年度から)

② 取組2 陶芸館の利用促進

行動目標2 「愛陶スクールプログラム」の情報発信

- ・「愛陶スクールプログラム」の学校への周知

行動目標3 オンライン予約制度の利便性向上

- ・作陶体験のインターネット予約申込みを実施(2020年度から)
- ・上記予約枠を拡大(2021年4月から)
- ・陶芸館の関連イベントも同じシステムで予約ができるよう運用(2024年度から)

③ 取組3 展示事業の充実等

行動目標4 常設展及び企画展の充実

- ・常設展及び企画展の充実に向けた検討

行動目標5 国際芸術祭の開催

- ・国際芸術祭の開催準備

行動目標6 教育・普及事業

- ・教育・普及事業の準備(2024年度)

行動目標7 魅力向上推進事業

- ・敷地内の案内表示について、統一的なデザインにより計画的に設置する(2024年度から)

行動目標8 近隣施設・団体との連携

- ・連携事業に関する調整・実施(2024年度)
- ・猿投窯が重要文化財に指定されるように取組を推進する(2024年度から)

(3) 評価基準

取組	評価基準（数値目標）	2024年度	2023年度	2022年度
① SNS等を活用した効果的な情報発信	Instagramフォロワー数 (2024年度:455人増)	4,551人	4,096人	3,787人
	Xフォロワー数 (2024年度:298人増)	2,997人	2,699人	2,359人
② 陶芸館の利用促進	陶芸館の団体利用者数 (2024年度:1,100人増)	2,151人	1,005人	4,954人
	陶芸館関連イベントの開催数 (2023年度:20回/年)	一回	54回	30回
③ 展示事業の充実	来館者数 (10万人/年)	7,800人	12,966人	76,674人
	展覧会アンケートによる満足度調査(90%以上の割合)	—	85.7%	85.2%

※2023年度の利用者数及び来館者数については6/18までの人数(2023年6月19日から長寿命化改修工事等のため休館)、2024年度の利用者数については、先行オープンした陶芸館の11月～3月の人数)

12 長寿命化改修工事等に伴う休館について

陶磁美術館は、「特定天井脱落防止対策工事」及び「長寿命化改修工事」に伴い、約1年9か月間休館(2023年6月19日から2025年3月31日まで)。つくるとこ!陶芸館については、2024年11月1日から先行して再開し、本館は2025年4月にリニューアルオープンした。

※改修工事の主な内容

- ・ 建築工事(特定天井脱落対策、屋根・外壁改修、床・壁修繕、トイレ改修など)
- ・ 電気設備工事(来客エリアのLED化など)
- ・ 機械設備工事(空調設備改修など)、エレベーター改修工事

休館中には、出張展示や出張陶芸事業、所蔵品データベース公開準備等を行い、公式WEBページやSNSで発信した。(2024年度事業参照)

13 リニューアル（施設面）

（1）創るゾーン

① つくるところ！陶芸館

来客エリアの床・壁修繕及び照明のLED化及びトイレのバリアフリー化を実施した。内装・サインを統一し、デジタルサイネージを設置するなど受付カウンターを更新した。



つくるところ！陶芸館入口



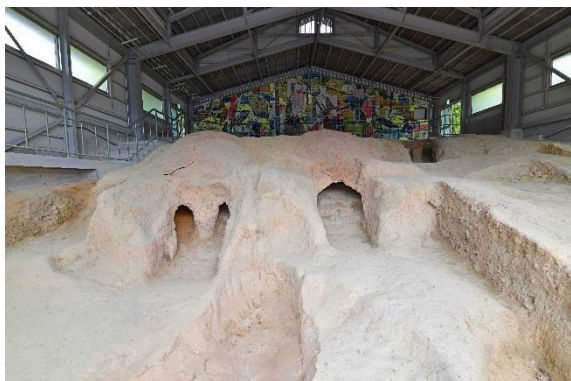
受付カウンター



デジタルサイネージ

② 窯の記憶 I・II

古窯館（南山8号窯・9号窯）を「窯の記憶 I・II」と新たに愛称を付けた。2023年度に施設内サイン2か所の改修を実施した。2024年度に窯の記憶 I・II への誘導サイン及び作品解説の新設を実施した。また、窯の記憶 II の新たなランドマーク作品として、美術家・川田知志氏が制作したタイルの陶壁《瀬戸風景 2022》を設置した。



窯の記憶 II



《瀬戸風景 2022》

③ 窯焼き広場

復元古窯周辺を「窯焼き広場」と新たに愛称を付けた。2023年度に復元古窯前サイン2か所及び市道一号窯跡前サイン2か所の撤去、新規設置を実施した。

(2) 見るゾーン 本館

本館館内の特定天井脱落対策工事を実施し、展示室をはじめ、来客エリアの床・壁修繕及び照明のLED化を行った。トイレのバリアフリー化等に加え、本館1階ロビーのトイレには、瀬戸・常滑の作家が制作した洗面鉢を設置した。また、ラウンジを明るく開放されたエリアに改修し、新たにキッズコーナーを設置した。さらに、展示室等の名称を変更し、よりわかりやすくした。

① 新規独立展示ケースの導入

最新の展示ケースを導入することにより、移動が安全かつ簡易化し、展示テーマに沿ったレイアウト変更が可能となった。完全エアタイト仕様により、展示作品が適切な温湿度環境で管理でき、作品自体の保安性も向上し、作品の特徴をより忠実に表現出来る展示空間を確保出来ることなど、展示性や安全性、取扱性などあらゆる面が格段に向上した。

- ・ 4面ガラス大型ハイケース（フレームあり） エアタイト仕様 中間脱着パネル付き
W2400mm × D1800mm × H2250mm 2台
- ・ 4面ガラス大型ハイケース（フレームなし） エアタイト仕様
W2400mm × D1200mm × H2250mm 6台



4面ガラス大型ハイケース（フレームあり）



4面ガラス大型ハイケース（フレームなし）

② 壁面展示ケース及び独立展示ケースのLED化

企画展等で使用する展示室1-A（旧第1展示室）の壁面展示ケース及び独立展示ケースの照明について、蛍光灯の故障や経年劣化による不具合が生じていたことから、最新のLED照明に更新した。壁面展示ケースは調光・調色が可能となり、タブレット操作により空間ごとの詳細設定やシーン呼び出しが可能となった。

③ 展示室等の名称変更

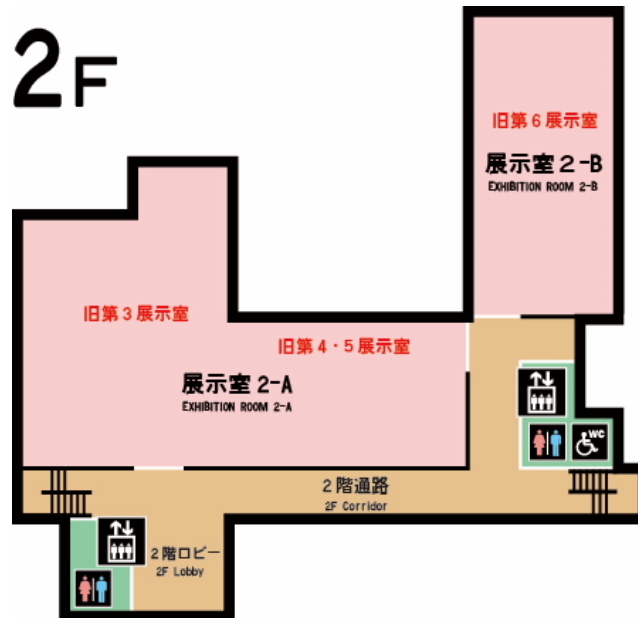
変更前	変更後
第1展示室、第2展示室	展示室1-A
第8展示室	展示室1-B
第3展示室、第4・5展示室	展示室2-A
第6展示室	展示室2-B
第7展示室	地下展示室

(3) 愛知を知るゾーン

フモトミズナラの小径を創設した。詳細は57頁④参照。

本館内各施設の
名称について

2F



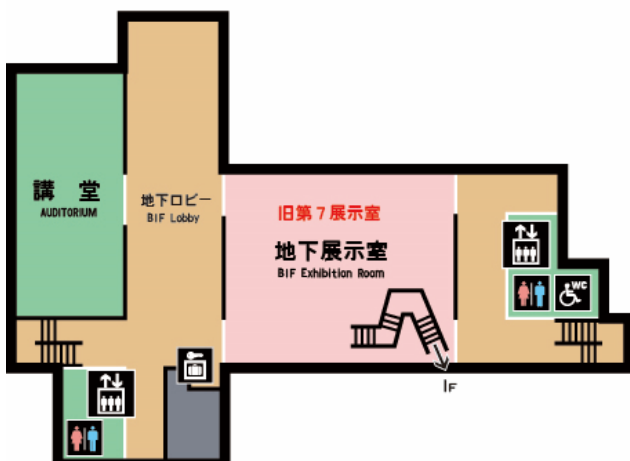
ラウンジ (上)
キッズコーナー (下)

1F



瀬戸・常滑の作家が制作した
洗面鉢

B1F



Ⅲ 参考資料

1 組織及び事務分掌

(1) 組織

愛知県行政組織規則（抜粋）

（陶磁美術館）

第19条第1項 愛知県陶磁美術館に次の課を置く。

総務課	学芸課
-----	-----

2 前項の各課の分掌事務は、下記のとおりとする。

総務課

- (1) 文書及び公印の管守に関すること。
- (2) 職員の人事及び福利厚生に関すること。
- (3) 予算、会計及びその他庶務に関すること。
- (4) 建物、附属設備及び物品の保全管理に関すること。
- (5) 陶芸実習室及び展示室の利用に関すること。
- (6) その他学芸課の主管に属さないこと。

学芸課

- (1) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の収集、保存及び展示に関すること。
- (2) 陶磁器及び陶磁器に関する資料の調査研究に関すること。
- (3) 陶磁器に関する知識の向上及び普及に関すること。
- (4) 陶磁器に関する資料の刊行その他広報に関すること。

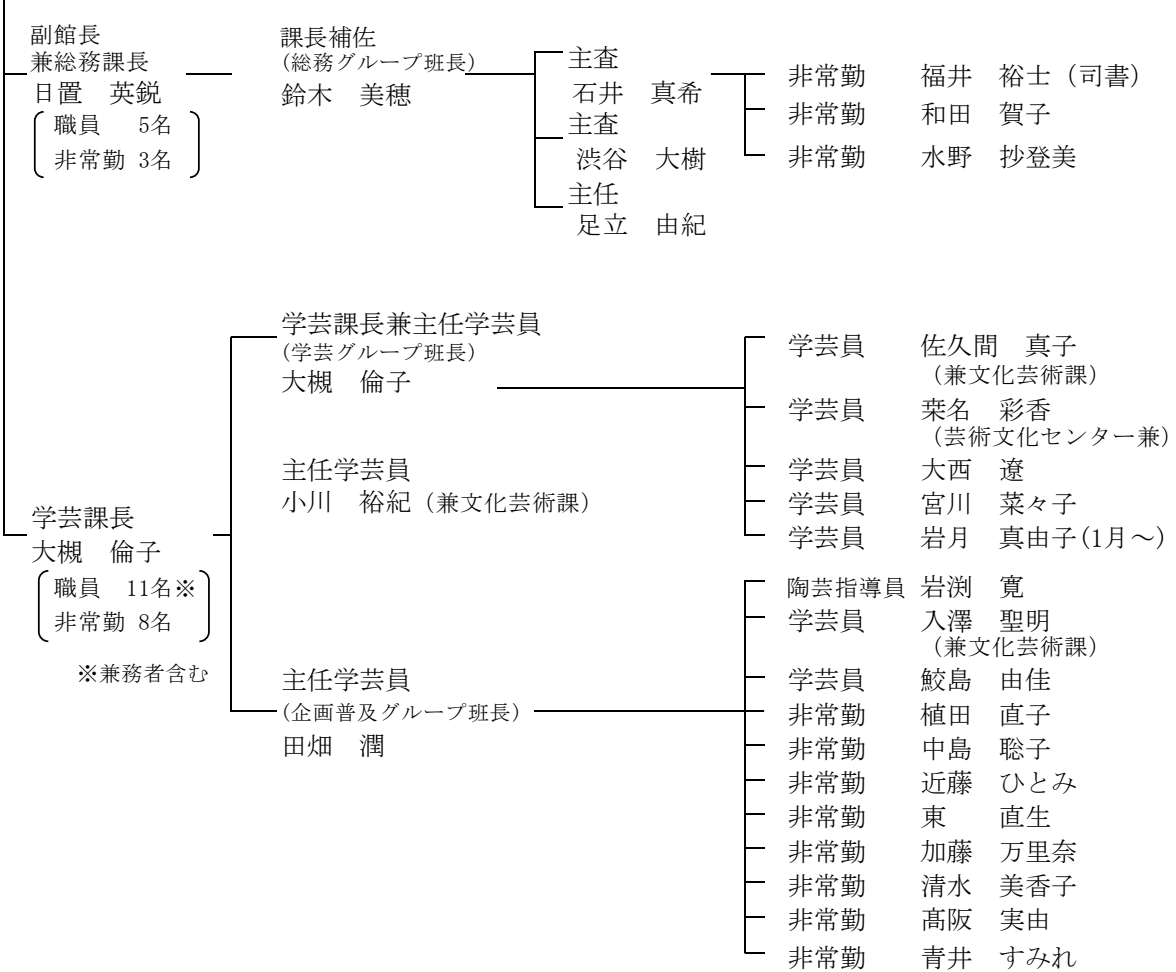
(2) 職員等定数（2024年度）

職員定数 16名 現員数 15名（正規15）

非常勤職員数 12名 現員数 12名（総長を含む）

(3) 組織図 (2024 年度)

総 長 伊藤 嘉章
 |
 館 長 佐藤 一信
 |
 副館長 日置 英鋭



2 決算額 (2024 年度)

(単位：千円)

歳 入		歳 出	
陶磁美術館使用料	3, 910	職員給与	111, 349
観覧料収入	0	管理事務費 〔光熱水費 業務委託 施設維持管理費〕	173, 899
行政財産使用料	149		
実習室等使用料	3, 761		
諸収入	146, 516	事業費 〔展覧会開催費 普及啓発事業費〕	48, 611
宝くじ収入	145, 000		
図録販売等収入	1, 516	施設設備整備費	1, 890, 290
国庫支出金	4, 822		
文化振興基金繰入金	699		
県債	1, 868, 000		
一般財源	200, 202		
歳入合計	2, 224, 149	歳出合計	2, 224, 149

3 愛知県陶磁美術館運営会議（2024 年度）

（1）会議開催

日 時 8 月 5 日（月）10:00－12:00
 出席委員 安藤委員、伊藤委員、加藤委員、可児委員、川本委員、
 柴田委員、長井委員、中野委員、波多野委員、平松委員

（2）陶磁美術館運営会議開催要領

（目 的）

第 1 条 愛知県陶磁美術館（以下「美術館」という。）の円滑かつ適正な運営に資するため、愛知県陶磁美術館運営会議（以下「運営会議」という。）を開催する。

（構成員）

第 2 条 運営会議の運営委員は、次の各号に掲げる者とし、愛知県陶磁美術館長（以下「館長」という。）が依頼する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 陶芸作家
- (3) 県関係者
- (4) その他館長が必要と認める者

2 運営委員の任期は 2 年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

（協議事項）

第 3 条 運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 常設展、企画展及び普及活動等に関すること。
- (3) その他必要と認める事項

（座長等）

第 4 条 運営会議に座長を置く。

2 座長は、愛知県陶磁美術館総長とする。

3 座長は、運営会議を主宰する。

4 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（顧問）

第 5 条 運営会議に顧問を置くことができる。

（運営会議）

第 6 条 運営会議は座長が招集する。

2 運営会議は、原則として公開するものとする。ただし、愛知県情報公開条例（平成 12 年愛知県条例第 19 号）第 7 条に規定する不開示情報が含まれる事項に関して調査検討等を行う場合又は運営会議を公開することにより会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合であつて、座長が運営会議の一部又は全部を公開しない旨を決定したときは、この限りでない。

3 会議録及び会議資料は、5 年間保存する。

（事務）

第 7 条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

（その他）

第 8 条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

（3）愛知県陶磁美術館運営会議運営委員

（任期 2023 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日 運営委員の氏名は 2025 年 6 月 1 日現在）

区 分	氏 名	職 名
学識経験者	梶原 義実	名古屋大学大学院人文学研究科教授
	長井 千春	愛知県立芸術大学美術学部長
	小林 牧	東京国立博物館名誉館員・客員研究員
陶芸作家	波多野 正典	瀬戸陶芸協会会長
	柴田 正明	常滑陶芸作家協会会長
	安藤 工	公益財団法人美濃陶芸協会会長
県関係者	鳴海 やすひろ	愛知県議会県民環境委員会委員長
	伊藤 嘉章	愛知県陶磁美術館総長
その他館長が必要と認める者	川本 雅之	瀬戸市長
	加藤 千晶	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)政策研究事業本部研究開発第 2 部(名古屋)兼観光戦略室副主任研究員
	可児 光生	美濃加茂市民ミュージアム館長
	中野 昭雄	愛知県陶磁器工業協同組合理事長
	林 智子	東海市立上野中学校校長（小中学校長会推薦）

4 愛知県陶磁美術館資料委員会（2024年度）

（1）会議開催

日 時 11月27日（水） 14:00—16:45
出席委員 荒川委員、唐澤委員、洲鎌委員、出川委員、長井委員（50音順）

（2）資料収集の方針及び関連例規

①方針

日本陶磁史の全体像を系統的に理解できるよう、全国の主要な窯業地の陶磁作品、海外の代表的な窯業地の陶磁作品、国内外の現代陶芸、陶磁器産業資料及び窯業関連資料の収集を図ることを基本方針とし、当面の収集目標を次のとおりとしている。

ア 日本陶磁の優品

日本陶磁史において、画期をなす時代の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。特にこの地域で花開いた猿投窯、瀬戸・渥美・常滑窯を中心に、古代・中世の重要文化財級の優品並びに桃山時代のバラエティに富んだ茶陶の優品、近世の名工や近代・現代の人間国宝等の代表作の収集に努める。

イ 外国陶磁の優品

海外の代表的な窯業地の美術的、歴史的に優れた作品の収集に努める。

ウ 現代陶芸作品

国内外を代表する近代・現代の陶芸作品並びに当地域を中心とする中部地方の代表的陶芸作家の作品の収集に努める。

エ 陶磁史の基礎的資料

時代別・産地別に特徴を示す日本陶磁並びにこれに関連する外国陶磁資料の収集に努め館蔵品の充実を図る。

②関連例規

- ・ 愛知県陶磁美術館資料委員会開催要領
- ・ 愛知県陶磁美術館資料購入要領
- ・ 美術品等取得基金管理要綱
- ・ 愛知県陶磁美術館資料取扱要領

（3）愛知県陶磁美術館資料委員会委員

（任期 2023年4月1日～2025年3月31日）

氏 名	職 名
荒川 正明	学習院大学教授
唐澤 昌宏	国立工芸館長
洲鎌 佐智子	京都府京都文化博物館学芸課長
出川 哲朗	大阪市立東洋陶磁美術館名誉館長
長井 千春	愛知県立芸術大学美術学部長

5 利用者の状況

(1) 年次別利用者一覧表

(単位：人)

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
1978年度	212	53,935	-	53,935	254	53,935
1979年度	292	47,163	-	47,163	162	101,098
1980年度	307	48,867	-	48,867	159	149,965
1981年度	307	49,686	-	49,686	162	199,651
1982年度	306	48,586	-	48,586	159	248,237
1983年度	307	48,108	-	48,108	157	296,345
1984年度	306	49,984	-	49,984	163	346,329
1985年度	305	52,443	-	52,443	172	398,772
1986年度	306	71,882	14,700	86,582	283	485,354
1987年度	308	50,287	15,197	65,484	213	550,838
1988年度	305	48,046	15,328	63,374	208	614,212
1989年度	306	53,288	18,781	72,069	236	686,281
1990年度	306	44,990	20,745	65,735	215	752,016
1991年度	306	40,390	21,465	61,855	202	813,871
1992年度	307	39,886	24,643	64,529	210	878,400
1993年度	306	27,439	24,413	51,852	169	930,252
1994年度	298	77,701	38,983	116,684	392	1,046,936
1995年度	307	76,613	51,957	128,570	419	1,175,506
1996年度	305	68,831	57,184	126,015	413	1,301,521
1997年度	306	58,213	57,725	115,938	379	1,417,459
1998年度	307	73,903	53,033	126,936	413	1,544,395
1999年度	307	56,076	52,861	108,937	355	1,653,332
2000年度	306	43,121	50,644	93,765	306	1,747,097
2001年度	306	49,268	44,427	93,695	306	1,840,792
2002年度	305	39,898	46,701	86,599	284	1,927,391
2003年度	307	43,849	44,030	87,879	286	2,015,270
2004年度	308	38,824	36,971	75,795	246	2,091,065
2005年度	331	53,294	29,426	82,720	250	2,173,785
2006年度	306	41,257	35,534	76,791	251	2,250,576
2007年度	308	39,744	35,917	75,661	246	2,326,237
2008年度	307	34,782	35,558	70,340	229	2,396,577
2009年度	306	37,516	34,464	71,980	235	2,468,557
2010年度	306	50,746	35,946	86,692	283	2,555,249
2011年度	307	64,859	38,527	103,386	337	2,658,635

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
2012年度	307	60,394	42,281	102,675	334	2,761,310
2013年度	305	67,114	41,889	109,003	357	2,870,313
2014年度	306	68,702	43,679	112,381	367	2,982,694
2015年度	310	50,695	41,350	92,045	297	3,074,739
2016年度	306	44,811	34,348	79,159	259	3,153,898
2017年度	308	37,173	31,290	68,463	222	3,222,361
2018年度	305	46,544	26,900	73,444	241	3,295,805
2019年度	307	50,691	25,948	76,639	250	3,372,444
2020年度	275	33,615	15,853	49,468	180	3,421,912
2021年度	306	60,122	21,160	81,282	266	3,503,194
2022年度	306	54,217	22,457	76,674	251	3,579,868
2023年度	69	8,498	4,468	12,966	188	3,592,834
2024年度	122	-	7,800	7,800	64	3,595,468
累 計	13,910	2,297,553	1,297,915	3,595,468		

※2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、4/11～5/17の間（陶芸館は5/31まで）休館

※2023年6月19日より2025年3月31日まで改修工事に伴う休館。陶芸館は、2024年11月先行オープン

	開館日数 (日)	観覧者	陶芸館	合 計	1日平均	累 計
2024年 4月	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-
6月	-	-	-	-	-	-
7月	-	-	-	-	-	-
8月	-	-	-	-	-	-
9月	-	-	-	-	-	-
10月	-	-	-	-	-	-
11月	26	-	2,097	2,097	81	2,097
12月	22	-	1,288	1,288	59	3,385
2025年 1月	24	-	1,509	1,509	63	4,894
2月	24	-	1,591	1,591	66	6,485
3月	26	-	1,315	1,315	51	7,800
2024年度計	122	-	7,800	7,800		

(2) 月別利用者数 (2024 年度)

※本館は改修工事に伴う休館 (2025/3/31まで) 陶芸館は11/1より先行オープン

(単位: 人)

区 分	2024.4月	5月	6月※	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025.1月	2月	3月	合 計		
有 料 観 覧 者	特 別 展	個人 高・大学生											0		
		個人 一 般											0		
		障害者 高・大学生												0	
		障害者 一 般												0	
		団体 高・大学生												0	
		団体 一 般												0	
		リニモ 高・大学生												0	
		リニモ 一 般												0	
	割引者	高・大学生												0	
		一 般												0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	企 画 展	個人 高・大学生												0	
		個人 一 般												0	
		障害者 高・大学生												0	
障害者 一 般													0		
団体 高・大学生													0		
団体 一 般													0		
リニモ 高・大学生													0		
リニモ 一 般													0		
割引者	高・大学生												0		
	一 般												0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
常 設 展	個人 高・大学生												0		
	個人 一 般												0		
	団体 高・大学生												0		
	団体 一 般												0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ク ー ポ ン	個 人												0		
	団 体												0		
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
パートナーシップ													0		
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
無 料 観 覧 者	学 校 行 事	小 学 生												0	
		中 学 生												0	
		高 校 生												0	
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	そ の 他	招 待 券												0	
		中学生以下												0	
		障害者常設展												0	
企画展観覧者												0			
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
観覧イベント													0		
観覧者等合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
陶 芸 館	作 陶	中学生以下							782	582	378	513	352	2,607	
		一 般							962	396	700	542	611	3,211	
		計	0	0	0	0	0	0	1,744	978	1,078	1,055	963	5,818	
	絵 付 け	中学生以下								15	92	50	146	25	328
		一 般								128	48	40	51	54	321
	計	0	0	0	0	0	0	0	143	140	90	197	79	649	
そ の 他	中学生以下								191	39	150	48	33	970	
	一 般								19	131	191	291	240	1,619	
計	0	0	0	0	0	0	0	210	170	341	339	273	2,589		
陶芸館イベント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
陶 芸 館 合 計	0	0	0	0	0	0	0	1,887	1,118	1,168	1,252	1,042	6,467		
総 計	0	0	0	0	0	0	0	1,887	1,118	1,168	1,252	1,042	6,467		

(3) 展覧会別観覧者状況一覧(特別展・企画展) (2000年度以降)

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
2000	万国博覧会と近代陶芸の黎明	2000.4.8~5.21	38日	7,800人	205人
	加藤舜陶古陶磁コレクション展 —その作品とともに—	2000.5.27~7.9	38	6,444	170
	煎茶とやきもの —江戸・明治の中国趣味—	2000.9.23~11.26	56	10,421	186
2001	ドイツ陶芸の100年 —アール・ヌーヴォーから現代作家まで—	2001.4.1~5.20	43	11,082	258
	尾張の茶道具 —瀬戸・常滑の名工たちをめぐって—	2001.9.8~10.28	44	8,135	185
	ルネサンスの精華 マジヨリカ名陶展 —イタリア・ファエンツァ国際陶芸博物館所蔵—	2001.11.3~12.24	45	10,103	225
2002	アメリカ現代陶芸の系譜 1950-1990 —自由の国のオブジェと器—	2002.4.13~6.30	68	9,396	138
	スイスの陶芸	2002.9.21~11.24	56	7,920	141
	ノベルティ・デザイン —光和陶器・デザインの軌跡—	2003.2.1~3.30	50	6,810	136
2003	土と炎の世紀 —ノリタケチャイナと製陶王国の100年史—	2003.4.5~6.8	56	9,019	161
	桃山陶に魅せられた七人の陶芸家 —陶片に学んだ技と美—	2003.6.14~8.24	62	12,175	196
	歴史の風景 —遺跡からのメッセージ—	2003.8.30~11.16	68	7,609	112
2004	近代窯業の父 ゴットフリート・ワグネルと万国博覧会展	2004.4.3~6.27	74	6,884	93
	土と炎の芸術 —世界の土器—	2004.7.3~11.7	110	8,909	81
	洛陽の夢 —唐三彩展	2004.11.16~12.23	33	9,400	285
	桃山陶の華麗な世界	2005.3.21~3.31	11	2,432	221
	ピカソの陶芸 —創造と伝統—	2005.3.21~3.31	11	1,560	142
2005	桃山陶の華麗な世界	2005.4.1~9.25	178	35,814	201
	ピカソの陶芸 —創造と伝統—	2005.4.1~9.25	178	21,169	119
	土から生み出すかたち 造形の軌跡 加藤清之展	2005.10.29~12.25	50	5,030	101
	陶器が語る来世の理想郷 中国古代の暮らしと夢 —建築・人・動物—	2006.2.4~3.26	44	6,761	154
2006	木村定三コレクションの茶陶	2006.4.8~6.18	62	8,870	143
	発掘されたムラと宝 —いにしへの暮らしと技を探る—	2006.6.24~9.24	80	7,372	92
	日本のわざと美 —重要無形文化財とそれを支える人々—	2006.10.7~11.5	26	8,410	323
	陶磁のこま犬百面相	2006.11.11~2007.1.21	55	6,084	111
	ベルシアのやきもの —8000年の美と伝統—	2007.1.27~3.31	55	8,009	146
2007	食卓の華 —世界に愛された日本の洋食器100年—	2007.4.7~6.10	56	8,211	147
	うつわ百花繚乱 —尾張の食器文化—	2007.4.7~6.10	92	11,981	130
	煎茶陶芸の美と伝統 —人間国宝 三代山田常山への道—	2007.10.6~11.25	44	6,818	155
	幻の壺 —本多静雄コレクションの古陶磁—	2007.12.1~2008.2.11	56	5,600	100
	新進陶芸家による「東海現代陶芸の今」	2008.2.16~3.30	38	4,503	119
2008	窯変の美 —鎌倉・室町の名陶—	2008.4.5~6.1	50	7,757	155
	李吉秀コレクション —韓国、日本、中国、東南アジアのやきもの—	2008.4.12~6.1	44	6,363	145
	中国古代の建築と暮らし —茂木計一郎コレクション—	2008.6.7~8.17	62	6,032	97
	世界の現代陶芸 —愛知県陶磁資料館コレクション—	2008.8.23~10.19	50	4,906	98
	海のシルクロードの出発点”福建” —沈没船、貿易都市、陶磁器、茶文化—	2008.10.25~2009.1.12	62	7,552	122
2009	やきもの収集の旅 —愛知県陶磁資料館コレクションの軌跡—	2009.1.17~3.29	62	6,072	98
	生誕90年 河本五郎展	2009.4.4~5.31	50	6,308	126
	美在掌中 中国の小さなやきもの	2009.6.6~7.26	44	5,299	120
	2009 アジア現代陶芸 —アジア(日・中・韓・台湾)の現代陶芸—	2009.8.1~9.27	50	3,347	67
	志野・黄瀬戸・織部のデザイン/桃山時代のやきものに関する展示	2009.10.3~11.29	50	8,081	162
2010	ジャパニーズ・デザインの挑戦 産総研に残る試作とコレクション	2009.12.5~2010.3.28	92	7,079	77
	名古屋の楽焼 八事窯 中村道年へのあゆみ	2010.4.3~6.27	74	8,909	120
	1000年前のハローワーク —見て触れて、親子で楽しい愛知の考古学—	2010.7.3~9.26	74	7,131	96
	帝室技芸員のわざと美 明治の人間国宝 —清風興平・宮川香山から板谷波山まで—	2010.10.2~11.28	50	8,047	161
	陶芸家・辻清明の眼 —作品とコレクション—	2010.12.4~2011.1.30	43	4,506	105
2011	阿蘭陀焼: あこがれのプリントウェア —海を渡ったヨーロッパ陶磁—	2011.2.5~3.27	44	4,930	112
	古陶の譜 中世のやきもの —六古窯とその周辺—	2011.4.2~5.22	44	5,315	121
	アンデス・メソアメリカ文明展 —古代の暮らしと聖なる動物たち—	2011.5.28~7.31	56	9,218	165
	東海現代陶芸 —思考する新世代—	2011.8.6~10.2	50	5,180	104
	開窯300年 マイセン 西洋磁器の誕生	2011.10.8~12.11	56	13,669	244
2012	日本人の愛した中国陶磁 龍泉窯青磁展	2012.1.21~3.31	61	9,853	162

年度	展覧会名	会期	開催日数	観覧者数	1日平均
2012	彫刻を聞き、土を語る 西村陽平展／西村陽平が出会った子どもたち展	2012. 4. 7～5. 27	44 日	4,324 人	98 人
	華麗なる美の競演 初期伊万里・柿右衛門・鍋島	2012. 6. 2～7. 22	44	9,825	223
	戦国のあいち 一信長の見た城館・陶磁・世界—	2012. 7. 28～9. 30	56	6,846	122
	アール・デコ 光のエレガンス	2012. 10. 6～12. 24	69	10,615	154
	陶家の蒐集と制作 I 清水六兵衛家—京の華やぎ—	2013. 1. 12～3. 24	62	9,366	151
2013	茶人のあそび心 形物香合番付の世界	2013. 4. 20～5. 26	32	5,757	180
	—日本・中国・韓国— 陶磁の名品、ここに集う	2013. 6. 1～7. 28	50	11,122	222
	2013アジア現代陶芸 —新世代の交感展	2013. 8. 3～9. 29	50	3,813	76
	泥象 鈴木治の世界	2013. 10. 12～12. 23	63	5,956	95
	モダニズムと民藝 北欧のやきもの:1950's-1970's,	2014. 1. 11～3. 23	62	11,734	189
2014	桃山・江戸の華やぎ 古唐津・古武雄	2014. 4. 12～6. 15	56	7,792	139
	魅惑の陶製人形～ノベルティ、人物備、はにわ、土人形、フィギュリン～	2014. 6. 21～8. 17	50	9,702	194
	高麗・李朝の工芸 —陶磁器、漆器、金属器—	2014. 8. 23～10. 26	56	8,619	154
	川喜田半泥子物語 —その芸術的生涯—	2014. 11. 1～12. 26	48	8,346	174
	愛知ノート —土・陶・風土・記憶—	2015. 1. 10～3. 15	56	5,072	91
2015	耀きの静と動 ポヘミアングラス	2015. 4. 11～5. 24	38	8,289	218
	鯉江良二展 —土に還る それ以前・それ以後—	2015. 6. 6～8. 2	50	4,887	98
	ギリシア陶器:「古典」の誕生 —アッティカ、ローマからセーヴル、ピカソまで—	2015. 8. 8～10. 12	59	6,704	114
	タイル 近代都市の表面	2015. 10. 17～12. 23	58	4,633	80
	煎茶 —山本梅逸と尾張・三河の文人文化—	2016. 1. 16～3. 27	62	6,473	104
2016	沖縄の工芸 —琉球ガラス・陶磁器・染織・琉球漆器—	2016. 4. 16～6. 19	56	6,371	114
	弥生への旅 —朝日遺跡 2000年前のキャラヴァンサライ—	2016. 7. 2～8. 28	50	5,084	102
	人が大地と出会うとき	2016. 9. 10～10. 23	38	4,224	111
	くらしをうつす —郷土の土人形展—	2016. 11. 3～12. 4	28	2,101	75
	ヘレンド —皇妃エリザベートが愛したハンガリーの名窯—	2017. 1. 7～3. 26	68	7,914	116
2017	瓦万華鏡 ～社会、地域、心をつなぐ～	2017. 4. 15～6. 25	62	4,159	67
	今右衛門の色鍋島	2017. 7. 1～8. 27	50	8,535	171
	2017アジア現代陶芸展	2017. 8. 31～10. 22	46	2,799	61
	染付:青繪(あおえ)の世界	2017. 11. 3～2018. 1. 14	56	4,686	84
2018	瀬戸陶芸の黎明	2018. 4. 14～6. 17	56	5,124	92
	知られざる古代の名陶 猿投窯	2018. 6. 30～8. 26	50	5,370	107
	THE YUNOMI 湯のみ茶碗	2018. 9. 1～10. 21	44	3,962	90
	瀬戸—かく焼き繋ぎ	2018. 10. 27～12. 16	44	3,819	87
	愛知県陶磁美術館の受贈外国陶磁コレクション選	2019. 1. 12～3. 24	62	4,026	65
2019	黄金の地と南の海から —東南アジア陶磁コレクション—	2019. 4. 13～2019. 6. 16	57	4,755	83
	インダス文明への道 —栗田功コレクションを中心に—	2019. 6. 29～8. 18	44	5,840	133
	川勝コレクション鐘溪窯 陶工・河井寛次郎展	2019. 8. 24～10. 20	50	6,329	127
	愛知やきものセレクション —県指定文化財の陶磁器—	2019. 11. 2～12. 22	44	3,593	82
	木村定三コレクションの文人趣味と煎茶 —こだわりの遊び—	2020. 1. 11～3. 22	62	4,311	70
2020	異才 辻晋堂の陶彫 —「陶芸であらざる」の造形から—	2020. 5. 19～6. 21	30	2,028	68
	The 備前 —土と炎から生まれる造形美—	2020. 8. 8～9. 27	44	4,634	105
	YAYOI・モダンデザイン —ニッポンの美、ここに始まる—	2020. 10. 10～12. 13	56	4,905	88
	日本陶磁の源・陶邑窯 —猿投窯の前に立ちはだかった巨大な壁—	2021. 1. 9～3. 21	62	4,381	71
2021	海を渡った古伊万里 ～ウィーン、ロースドルフ城の悲劇～	2021. 4. 10～6. 13	56	6,689	120
	水滴 小さき陶芸 —大島国康コレクションを中心に—	2021. 6. 26～9. 26	80	5,203	65
	華*花 —四季の花と中国陶磁史—	2021. 10. 9～12. 12	56	6,438	115
	昭和レトロモダン —洋食器とデザイン画	2022. 1. 8～3. 21	63	6,402	101
2022	酒のうつわ—その美、こだわり…	2022. 4. 9～7. 3	75	5,191	69
	ホモ・ファーベルの断片—人とのづくりの未来—	2022. 7. 16～10. 2	68	4,929	72
	平安のやきもの—その姿、うつろいゆく	2022. 10. 29～2023. 1. 15	60	4,103	68
	アーツ・アンド・クラフツとデザイン ウィリアム・モリスからフランク・ロイド・ライトまで	2023. 1. 28～3. 26	50	16,092	322
2023	未来へつなぐ陶芸 伝統工芸のチカラ	2023. 4. 15～6. 18	57	4,650	82

6 沿革

- 1972年 2月 10日 県は、県政 100 年記念事業として基本計画を策定し、具体的建設計画を発表する。建設予定地を瀬戸市大字山口字南山地内に決定する。
- 4月 1日 愛知県商工部（工業振興課）に「建設係」を設置し、建設事務に当たる。
- 6月 20日 「愛知県陶磁資料館（仮称）建設会議（構成員 30 人）を設置し、第 1 回会議を開催する。
- 1973年 3月 31日 瀬戸市大字山口字南山に建設予定地 11 万平方メートル余を買収する。
- 6月 5日 基本計画を立案・策定する。
- 1975年 1月 22日 進入路・駐車場造成工事に着工する。
- 1976年 1月 31日 同上 竣工する。
- 12月 25日 産業展示棟（南館）建設工事に着工する。
- 1977年 4月 1日 愛知県陶磁資料館（本館及び付属施設）建設事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。
- 12月 23日 本館及び付属施設建設工事に着工する。
- 1978年 3月 20日 産業展示棟（南館）建設工事竣工する。面積 1,620.74 平方メートル。
- 3月 29日 愛知県陶磁資料館条例（S53.3.29 愛知県条例第 7 号）が公布される。
- 4月 1日 愛知県陶磁資料館（産業展示等）の所管事務が愛知県商工部（工業振興課）から愛知県教育委員会（文化財課）に所管替えとなる。
- 土地 112,335.20 平方メートルが商工部から所管替えとなる。
- 5月 26日 愛知県陶磁資料館規則（S53.5.26 愛知県教育委員会規則第 5 号）が公布される。（S53.6.1 施行）
- 6月 1日 産業展示棟（南館）開館記念式典を挙げる。開館記念特別展「日本の陶磁」同企画展「明治の陶器」開会式
- 1979年 3月 20日 本館及び付属施設建設工事竣工する。面積 5,703.23 平方メートル。
- 3月 31日 農地林務部から土地 104,743.00 平方メートルが所管替えとなる。
- 4月 1日 愛知県陶磁資料館「かい」として発足する。
- 7月 20日 南館から愛知県青少年公園まで遊歩道竣工する。
- 10月 13日 本館開館記念式典を挙げる。本館開館記念特別展「東洋の陶磁」開会式
- 1981年 3月 27日 復元古窯大窯、同 3 連房式登り窯並びに覆屋（面積 99 平方メートル）竣工する。
- 11月 26日 財団法人東海財団・（株）東海銀行から県民茶室「陶翠庵」の寄贈を受ける。面積 148.23 平方メートル。
- 1982年 12月 4日 財団法人東海財団から「西館」の寄贈を受ける。面積 232.75 平方メートル。
- 1983年 8月 3日 皇太子殿下、同妃殿下が当館を御視察になる。
- 1986年 3月 20日 陶芸実習施設「陶芸館」竣工する。面積 469.74 平方メートル。
- 4月 12日 陶芸館開館記念式典を挙げる。
- 1987年 6月 11日 入館者が 50 万人を突破する。
- 10月 9日 開館 10 周年記念特別展「日本陶磁絵巻」開会式
- 1989年 5月 31日 愛知県土地開発基金から土地 60,297.15 平方メートル取得する。
- 7月 1日 愛知県陶磁資料館拡充整備検討会議設置
- 1990年 7月 27日 皇太子殿下が当館を御視察になる。
- 12月 5日 増築敷地造成工事（一次）に着工する。
- 1991年 3月 27日 愛知県陶磁資料館規則（S53.5.26 愛知県教育委員会規則第 5 号）を廃止する規則が公布される（H3.4.1 施行）。愛知県陶磁資料館規則（H3.3.27 愛知県規則第 22 号）が公布される（H3.4.1 施行）。

4月 1日	愛知県陶磁資料館の所管事務が愛知県教育委員会（文化財課）から愛知県総務部文化振興局（企画課）に所管替えとなる。
8月 8日	増築敷地造成工事（二次）に着工する。
10月 16日	増築工事に着工する。
1992年 9月 29日	陶磁資料館古窯上屋（古窯館）建設工事に着工する。
1993年 3月 18日	古窯館（南山8号窯跡、南山9号窯跡）竣工する。面積344平方メートル。
11月 30日	本館、陶芸館増築工事竣工する。面積12,449.91平方メートル。
1994年 4月 1日	陶芸館増築部分及び古窯館が開館する。
7月 5日	陶磁資料館完成記念式典を挙げる。完成記念特別企画展「東洋陶磁名品展」内覧会
7月 6日	本館増築部分が開館する。
9月 22日	陶磁資料館完成記念特別企画展「国際現代陶芸展」開会式
1998年 4月 4日	開館20周年記念特別展「耀州窯展」開会式
10月 3日	開館20周年記念特別展「日本の三彩と緑釉」開会式
10月 11日	入館者が150万人を突破する。
2000年 4月 1日	陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県総務部文化振興局（企画課）から愛知県県民生活部（文化学事課）に変更になる。
2003年 4月 1日	愛知県教育委員会から博物館法第29条に規定する博物館に相当する施設として指定を受ける。
6月 10日	皇太子殿下が愛知万博会場を御視察の際、当館を御利用になる。
2004年 1月 18日	入館者が200万人を突破する。
2005年 3月 20日	愛知万博記念特別企画展「桃山陶の華麗な世界」・「ピカソの陶芸—創造と伝統—」合同開会式
2006年 4月 1日	陶磁資料館の所管事務が組織再編により愛知県県民生活部文化学事課から愛知県県民生活部文化芸術課に変更になる。
2008年 4月 5日	開館30周年記念特別企画展「窯変の美」開会式
10月 25日	開館30周年記念「陶磁フェスティバル」、特別企画展「海のシルクロードの出発点“福建”」開会式
2010年 7月 3日	本館2階常設展・南館常設展リニューアルオープン。「にぎわい創出プロジェクト事業」を実施する。
8月 13日	入館者が250万人を突破する。
2012年 12月 21日	愛知県陶磁資料館を愛知県陶磁美術館に改正する条例（H24.12.21 愛知県条例第76号）の一部を改正する条例が公布される（H25.6.1施行）。
2013年 5月 1日	愛知高速交通「陶磁資料館南駅」へのアクセス遊歩道土地3,105.12平方メートルが産業労働部（産業科学技術課）から県民生活部（文化芸術課）に所管替えとなる。
5月 31日	愛知県陶磁資料館規則を愛知県陶磁美術館規則に改正する規則が公布される。（H25.5.31 愛知県規則第33号、H25.6.1施行）。
6月 1日	開館35周年「愛知県陶磁美術館」新名称記念式典を挙げる。開館35周年・新名称記念特別企画展「—日本・中国・韓国—陶磁の名品、ここに集う」開会式
2014年 10月 4日	本館常設展示室（第3展示室～第6展示室）リニューアル開会式。陶磁の名品コーナーを新設する。
2015年 5月 23日	入館者が300万人を突破する。
2016年 2月 27日	南館常設展リニューアルオープン。
2018年 4月 1日	愛知県陶磁美術館の所管事務が組織再編により愛知県県民生活部（文化芸術課）から愛知県県民文化部（文化芸術課）に変更になる。

- 6月 30日 開館 40 周年記念特別企画展「知られざる古代の名陶 猿投窯」開会式
- 10月 27日 開館 40 周年記念特別企画展「瀬戸ーかく焼き繋ぎ 江戸時代の本業と新製ー」開会式
- 2019年 4月 1日 愛知県陶磁美術館の所管事務が組織再編により愛知県民文化部（文化芸術課）から愛知県民文化局文化部（文化芸術課）に変更になる。
- 2020年 4月 11日 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、観覧施設は 5.17 まで、陶芸館は 5.31 まで休館。
- 2022年 1月 5日 西館に展示されていた狛犬を本館ロビーに移設。狛犬インスタレーション展示として、常設展示の新たな見どころ、撮影スポットとした。
- 3月 12日 入館者数が 350 万人を突破する。
- 7月 16日 国際芸術祭「あいち 2022」連携企画事業／特別展「ホモ・ファーベルの断片ー人とのづくりの未来ー」開会式
- 2023年 6月 19日 長寿命化改修工事等のため休館（2025. 3. 31 まで）
- 2024年 11月 1日 つくるとこ！陶芸館が先行オープン
- 2025年 3月 30日 4月 1 日にオープンする本館の内覧会を実施